

令和6年度

地区・郡市中教研「研究活動の概要」

○上越地区

- ・上越
- ・柏崎・刈羽
- ・糸魚川
- ・妙高

○中越地区

- ・長岡・三島
- ・三条
- ・小千谷
- ・加茂・南蒲
- ・十日町・中魚
- ・見附
- ・魚沼
- ・南魚沼・南魚
- ・燕・西蒲

○新潟地区

- ・新潟

○下越地区

- ・新発田
- ・村上・岩船
- ・五泉・東蒲
- ・阿賀野・胎内・北蒲
- ・佐渡

1 地区中教研の活動

(1) 第1回上越地区郡市長会 8月5日(月) オンライン会議

①令和6年度上越地区中教研組織(正副会長、事務局等)の確認

②令和6年度主要研究会及び活動内容についての検討

・令和5年度～6年度指定の会場校5校

上 越 市:国語(春日中)、数学(城北中)、総合的な学習の時間(三和中)

柏崎市・刈羽郡:美術(柏崎東中)

糸魚川市・妙高市:道徳(新井中)

・令和6年度～7年度指定の会場校5校

上 越 市:理科(城東中)、学校保健(城北中)

柏崎市・刈羽郡:社会(松浜中)、音楽(北条中)

糸魚川市・妙高市:英語(能生中)



(2) 上越地区運営推進委員会 兼 第2回上越地区郡市長会 【新井中 道徳の授業風景】

例年12月頃に開催していたが、委員等の参集を求めず、アンケート形式で実施することにより、学期末等における担当者の負担軽減を図った。

2 県中教研指定研究等事業による研究会(2年次のみ)・・・すべて対面方式

教科領域	研 究 主 題	開催期日	会場校(参加人数)
国 語	課題を「自分ごと」として捉え、思考の過程を楽しみながら考えを深める生徒の育成	11月12日(火)	春 日 中 (88名)
数 学	深い学びに向けた数学的活動の工夫 ～批判的思考の育成を目指して～	11月12日(火)	城 北 中 (39名)
総 合	ふるさとへの愛と誇りを胸に、自分の将来と今後の地域の在り方について考える生徒の育成	11月28日(木)	三 和 中 (40名)
美 術	豊かな生き方を目指す美術授業	11月12日(火)	柏崎東中 (30名)
道 徳	語り合いを通して、よりよい生き方を求める生徒の育成	11月22日(金)	新 井 中 (30名)

☆2年次の研究会を終えた代表者からの、1年次の代表者に向けての意見を紹介する。

- 推進委員を中心に準備を進めるだけではなく。授業公開をする学校で、いかに全校体制で取り組む雰囲気をつくることができるかがとても大切である。各校の学校規模が小さくなり、教科部会を開くことが困難な場合もある。各学校の研究主題との関連をよく吟味していくことで、研究主題に向けた授業を練り上げようとする校内体制をつくることができると考える。
- コロナ等の感染拡大リスクが多少改善されてきてはいるが、これまでの取り組みを参考にし、急な状況にも対応できるよう備えていくことは重要である。

3 地区中教研の成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- 研究会当日のみならず、推進委員会によるプレ授業を複数回継続的に実施することにより、指導案等の検討を入念に行うことができた。どの教科・領域でも同様な取組が見られ、より中身の濃い実践につながった。指導者との連携を図りながら進め適切な指導を受けられたことは、授業改善を進める上で大変有益であった。
- 可能な範囲で市学校研との共催を図り、担当者の負担の軽減とより深い研修を両立することができた。また、教科・領域にもよるが小・中一体の市学校研を母体としたことにより、異校種からの参加もあり、授業改善について校種を越えた情報交換や連携が図られた。
- 深い学びを意識した授業改善だけでなく、各郡市として重点を置いている視点を意識した授業づくりに取り組み、各校校内研修や師範授業を通して、進むべき方向が明確になりつつある。

<課題>

- △ 各郡市学校研との共催で研究会を行っていることもあり、開催期日が別日になると参加者が減ってしまう。各学校事情、他の研修団体等との研究日のすり合わせ等は必須である。
- △ 指導と評価の一体化をより意識した取組が必要である。研究を推進していく中で、あくまでも生徒の姿に研究の軸足を置くことをさらに意識していくことが求められる。
- △ 研究会の成果を開催校や当日の参加者のみならず郡市内に発信し、研究会後も同一教科・領域内の研究を継続し、つなげていくことが大切である。

<次年度の取組（方向性）>

- ◇ 各郡市中教研組織の見直しを行い、研究推進を担っている教職員の負担軽減とより充実した研究の推進に、これまで以上に各郡市校長会が中心となり取り組んでいく。
- ◇ 今年度の4郡市会長会での議論から明らかになった個別の事案について、地区中教研として一定の統一見解を示し、地区全体としての研究推進の充実を図っていく。
- ◇ 会員数の減少により研究推進母体が広域に広がるのが危惧されるが、オンライン等の活用を視野に、多面的に物事を捉える絶好の機会として研究を推進していく。



【柏崎東中 美術の授業風景（左）と協議会の様子（右）】

深い学びの姿を明確にして、確かな学力を育む授業づくりの推進

上越市中学校教育研究会 会長 小玉 裕

1 今年度の課題と取組

＜今年度の課題＞

上越市中学校では、確かな学力の育成が喫緊の課題である。また、市教育委員会では「子どもが主体的に学ぶ授業づくり」を学校教育実践上の重点1と定めている。そこで、教師自身が捉えている「生徒が主体的に学ぶ姿」を明確にする必要がある。その上で、その姿を生み出すための手立てを工夫しながら授業を組み立てていくことで、生徒の確かな学力を育むことを課題とする。

＜取 組＞

指定研究の推進に当たり、研究推進委員会を組織し、計画的に研究を推進する。

2 研究活動の概要

(1) 指定研究の推進（市学校研との共催）

○指定研究2年次・・・国語、数学、総合的な学習の時間

＜2年次発表の概要＞・・・①②③とも、参集・対面形式で実施

① 「国語」研究発表

会 場	上越市立春日中学校	開催日	令和6年11月12日（火）	人数	88名
指 導 者	上越教育大学教職大学院 教授 佐藤 多佳子 様				
研究主題	課題を「自分ごと」として捉え、思考の過程を楽しみながら考えを深める生徒の育成				
授業公開	3年 夏草―「おくの細道」から― 授業者 教諭 笠尾 民子 後藤 弘彦				

② 「数学」研究発表

会 場	上越市立城北中学校	開催日	令和6年11月12日（火）	人数	47名
指 導 者	上越教育事務所 学校支援第2課 指導主事 松浦 康平 様				
研究主題	深い学びに向けた数学的活動の工夫 ～批判的思考の育成を目指して～				
授業公開	2年 データの分布 授業者 教諭 北 健太郎				

③ 「総合的な学習の時間」研究発表

会 場	上越市立三和中学校	開催日	令和6年11月28日（木）	人数	41名
指 導 者	上越教育大学 特任教授 釜田 聡 様				
研究主題	ふるさとへの愛と誇りを胸に、自分の将来と今後の地域の在り方について考える生徒の育成				
授業公開	3年 三和区地域活性化プロジェクト～もうすぐで上沼道三和 IC 開通！わくわく三和区！～ 授業者 教諭 山川 純				



【国語（春日中）の授業】



【数学（城北中）の協議会】



【総合学習（三和中）の授業】

(2) 1 年次プレ授業の様子 → 参集・対面形式で実施

教科	研 修 内 容
学校保健 11 月 19 日	○授業研究：中教研 1 年次プレ授業 2 年「落ち込んだときの立ち直り方」 研究主題 人とかかわりを通して 多様な考えや行動を認め合える心の健康教育 ～自己肯定感とレジリエンスを高める指導の工夫～ 授業者：上越市立吉川中学校 教諭 覚張 壮 山崎 祐子 養護教諭 竹内 美穂子 指導者：学校法人北陸学園 講師 中村 直美 様 上越市教育委員会 指導主事 板垣 希望 様
理科 12 月 17 日	○授業研究：中教研 1 年次プレ授業 1 年「光の性質」 研究主題 課題解決に向けて科学的に探究する生徒の育成 授業者：上越市立城東中学校 教諭 平原 琢也 指導者：上越教育事務所 指導主事 植木 厚夫 様



【学校保健（吉川中）の授業】



【理科（城東中）の授業】

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

< 成果 >

- ・指定研究校と市学校研が連携しながら研究を進めている。この取組は充実した研究推進に大変有効であり、今後も継続していく。また、上越教育大学や教育事務所、市教委から協力をいただいたそれぞれの指導者からは授業改善の在り方について有益な助言を得ることができた。大変感謝している。
- ・指定 1 年次からのプレ授業を通し、研究の方向性をより明確にすることができた。それぞれの部会の取組に称賛を送る。

< 課題 >

- ・担当教科教員が 1 人、特にまだ経験の浅い若手教員のための学校では授業改善・学力向上に関わる研修の機会が十分とは言えない。これまで以上に、中教研研究推進委員会及び市学校研の組織を生かし、教科研修の充実を図っていく必要がある。

< 次年度の取組（方向性） >

- ・生徒の学力向上に向け、市教委、市中学校校長会が連携して、実効性のあるセ策に取り組んでいく。今後も、現状分析、実践紹介、各校で目指すこと等の確認を行い、中教研での取組につなげていきたい。

授業力の向上～深い学びにいたる授業を目指して～

柏崎市刈羽郡中学校教育研究会 会 長 杉谷 明
同 副会長 山田 智

1 今年度の課題と取組

<課 題>

- ・学び合いを通して主体的に追究する生徒の育成。
- ・生徒が「深い学びにいたる」ための授業づくり。
- ・ICT 機器等を活かした対話のある学びの創造。

<取 組>

○教職員一人一人の授業力の向上

- ・「主体的・対話的で深い学び」「深い学びにいたる授業」を日常的に推進し深化させることで「授業力の向上」を目指す。このことが「学力の向上」につながる。
- ・教職員一人一人が、個々の教科研究・教材研究や各研究部会主催の研修会に無理なく意欲的に参加できるような環境整備・研修体制を整える。

2 研究活動の概要

(1) 教育文化講演会

ア 会場・期日・参加者数 柏崎市文化会館アルフォーレにて参集型講演会 8月19日(月) 約550名
イ 講 師 脳科学者 茂木 健一郎 様
ウ 演 題 教育者に向けた脳科学者からの提言
～子供たちの学びの深さや成長に資するために～

(2) 「美術」学習研究事業(2年次)

ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立東中学校 11月12日(火) 30人
イ 指 導 者 上越市立柿崎中学校 校長 大塚 啓 様
ウ 研究主題 「豊かな生き方を目指す美術授業」
エ 授業公開 第2学年 美術 「水墨画」
授業者 教諭 菅原 由真



オ 研究協議 「美術を通してコミュニケーションができ、豊かな生き方ができる生徒の育成」を軸とし、「仲間の作品や参考作品などからよさや美しさを感じ取り、表現の多様性を高めよう」「表現と鑑賞の往還を通して、考えをまとめ自らの思いを確かにしていく姿」を目指し、研究を進めてきた。研究会当日は、偶然の効果を含めた水墨の多様な表現効果を生徒自ら発見、驚き、共有することでテーマに迫ることができた。協議会では、参加者の発言や指導者のまとめから、今後の制作の広がり可能性を参加者全員で共有することができた。また、美育しんこう部の研修会を兼ねていたため、グループ協議では、小・中・特と複数の校種による交流・情報交換を実現することができた。

(3)「社会」学習研究事業（1年次）

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立松浜中学校 11月19日(火) 15人
- イ 指導者 刈羽村立刈羽中学校 校長 後藤 純二 様
魚沼市立広神中学校 校長 小森 一秀 様
柏崎市立鏡が沖中学校 校長 杉谷 明 様
- ウ 研究主題 「当事者意識のある深い学びを実現させる授業の工夫」
～他者と協働し、粘り強く最適解を探究する課題解決を通して～
- エ 授業公開 第2学年A組 社会科 地理的分野 日本の諸地域「近畿地方」
授業者 教諭 伊佐 勝
- オ 研究協議 解決困難な社会的事象の解決を課題に設定し、当事者意識をもって現実に即した最適解を導き出す学習過程を工夫することで、「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、地域社会に参画しようとする意欲や態度を育む単元開発に取り組んだ。協議会には全県部長や郡市会長からも参加いただき、研究主題に迫るための手立てが有効であったか、深い学びにいたる授業となっていたかについて様々な示唆をもらい、指定研究2年次に結び付く充実した学びの場となった。

(4)「音楽」学習研究事業（1年次）

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立北条中学校 11月28日(木) 15人
- イ 指導者 新潟大学 名誉教授 伊野 義博 様
- ウ 研究主題 「深い学びにいたる、豊かな音楽性を育む授業」
- エ 授業公開 第2学年 音楽 歌唱「合唱」
授業者 教諭 小林 良輔
- オ 研究協議 県中教研の研究主題を受け、本研究主題を設定し、研究推進委員で協議・指導案検討を進め、提案する音楽授業を実践公開した。協議会には、指導者の他に、全県部長や下越地区授業者からも参加いただき、指定研究2年次へ向けた様々な示唆をいただくことができた。

(5) 柏崎市立教育センターとの合同研修講座

(6) 研究成果の刊行 「柏崎刈羽の学校教育」第20集

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成 果>

既存の知識・技能を活用し新たに思考・判断・表現を行ったり、対話により自己の考えを深化させたりすることで、「深い学びにいたる授業」を実践することができた。

<課 題>

各校、各教科における生徒の意欲を引き出す単元構成や課題設定の工夫と、「深い学びにいたる授業」づくりを、日々の授業から実践していくことが必要である。

<次年度の取組>

「深い学びにいたる授業」を目指し、個人及び地域全体で、さらなる「授業力の向上」を推進する。また、その取組を通し地域全体の「学力の向上」を目指す。

明確な理由や根拠をもち、自分の考えや意見を表現できる生徒の育成

～能生中学校における研究推進１年次（英語）より～

糸魚川市中学校教育研究会 会 長 平野 克之

１ 今年度の課題と取組

＜今年度の課題＞

糸魚川市では子ども一貫教育方針のもと、「学力向上いといがわプラン」を推進している。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善として、各校が生徒の実態を踏まえながらも全市共通の指導のポイントを意識して指導に当たることが大切である。そして、授業者は各授業場面における「深い学び」を明確にして指導することが求められる。

＜取 組＞

今年度の糸魚川市中学校教育研究会においては、能生中学校で英語の県中教研指定１年次の公開授業を行った。そのため、研究推進責任者を中心として、上越教育事務所への要請訪問事業（英語）と連携しながら、市内４校の英語教育の推進に向けて実践を行った。

２ 研究活動の概要

（１） 研究主題

「明確な理由や根拠をもち、自分の考えや意見を表現できる生徒の育成」

（２） 主題設定の理由

市内生徒の実態として、自分が「できる」と感じ、関心のある話題の活動に意欲的に取り組むことができる。しかし、難しいと感じる内容の活動に対しての抵抗感が強かったり、テーマについて自らの考えをもてなかつたりするなど、粘り強く学習に取り組めていないことが課題である。そのため、自分の考えや意見をもつために、どうしてそう思ったか主体的に思考し表現できる生徒の育成を目指す。

（３） 研究推進の内容

- ① 6/18（火） 第１回研究推進委員会（糸魚川東中学校）
推進委員顔合わせ 研究計画の作成 研究主題の案作成
- ② 7/25（木） 第２回研究推進委員会（糸魚川東中学校）
研究主題の練り上げ 目指す深い学びの姿の検討
- ③ 9/ 4（水） 第３回研究推進委員会（能生中学校）
推進委員による公開授業① 協議会
- ④ 10/30（水） 第４回研究推進委員会（糸魚川中学校）
推進委員による公開授業② 協議会 １年次発表の指導案検討
- ⑤ 11/15（木） 上越地区英語教育研究発表会【１年次発表】（能生中学校）
公開授業（授業者 石野佑紀枝教諭） 研究協議会（参加 23 名）
- ⑥ 12/ 4（水） 第５回研究推進委員会（青海中学校）
推進委員による公開授業③ 協議会
- ⑦ 12/19（木） 第６回研究推進委員会（糸魚川東中学校）
今年度のまとめ ２年次の方向性

（４） 研究の方法と内容

① 協同学習

- ・他者との関わりの中で、個の学習では気づくことができなかった内容や言語に触れる。

- ・オープンクエスチョンを使い、相手の話を引き出したり、何でも話せる雰囲気をつくったりする。
- ・自分の考えをもてるように、生徒が興味関心のあるトピックでの活動や、自分の考えを否定されないやり取りといった思考力・判断力・表現力等を高める活動につながるトレーニングを行う。

② 思考ツール、ホワイトボードなどの教具の活用

- ・自分の考えや意見、その理由を表現することができるよう、思考ツールを活用する。
- ・ホワイトボードに「言えなかった表現」をまとめたり、話したことを書いてみたりする。

③ 課題設定の工夫、導入の工夫

- ・コミュニケーションにおける目的・場面・状況設定のあるタスクを設定する。
- ・授業の構想には、単元目標との関わりを位置付ける。
- ・単元の学習前と、単元末で学習が終わった時の変容を見取る。(何ができるようになったか)

(5) 1年次発表について

令和6年11月15日(金)、能生中学校において、上越教育大学大学院の大場浩正教授と上越教育事務所の久保成毅指導主事を指導者に迎えて、1年次の研究発表会を実施した。

公開授業では、石野教諭により第3学年英語「Program 6 The Great Pacific Garbage Patch (Sunshine English Course 3)」の単元において、「教科書の本文の内容を踏まえて、自分の考えやその理由について簡単な語句や文を用いて書くことができる」をねらいとした授業を行った。

「協同学習」「ホワイトボード等教具の工夫」「課題設定と導入の工夫」の3つを研究主題に迫るための手立てとして授業を組み立て、協議会では、その手立てが有効に作用していたかをテーマとして協議し、参会者から多くの意見をいただくことができた。また、2名の指導者からは、1年次研究における手立ての有効性や改善点と今後の研究の方向性についてご示唆をいただいた。



3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・協同学習は、他者から学んだり、考えを深めたりすることに有効であった。アイデアが浮かばない生徒も、仲間のアイデアにふれ、自分の考えや意見を何とか生み出そうとする姿が見られた。
- ・ホワイトボードはICTやノートよりも「気軽に書ける」ことが強みであり、発話をいかに文字に残すかという面での有効性が感じられた。また、ICTを活用した「学びの蓄積」について提案がなされた。

<課題>

- ・「課題設定の工夫、導入の工夫」には課題が見られた。タスクにおける相手意識や目的が曖昧だったり、行う必然性がないと感じられたりする活動も見られた。これらが明確なものとなれば、生徒の活動への意欲向上やさらなる成長の姿が期待できると考える。
- ・学習課題への支援方法にも課題がある。生徒が課題に対して困難さを抱かないよう、教師が先回りしすぎている。生徒が「なんて言ったらよいだろう」「これが言いたいけれどもわからない」といった困難さを抱える場面も時には必要である。

<次年度の取組（方向性）>

来年度は、能生中学校で英語の県中教研指定研究2年次となる。今年度の成果と課題を踏まえ、今年度の手立てが、深い学びへの手立てとして有効だったかどうかを検証し、市内の生徒が研究主題の姿により近づけるよう、手立ての改善も図りながら、研究を推進していきたい。

妙高型イエナプラン教育と読解力の育成による深い学びへの授業づくり

妙高市中学校教育研究会 会 長 小林 辰男

1 今年度の課題と取組

〈今年度の課題〉

妙高市は令和2年度から「読解力の育成」を、令和5年度から「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進を目指した「妙高型イエナプラン教育」を学校教育の重点に位置付けて研修を行っている。このことは「深い学び」の授業づくりと大いに関連があり、この2点を大切にして教員の指導力向上に努めている。

また、新井中学校（妙高市）が令和5年度からの2年間、県中教研の道徳の研究指定を受けており、今年度は2年次の研究を進める。

〈取 組〉

全ての教科で深い学びの創造に向けて、「読解力」の6分野（1係り受け解析・2照応解決・3同義文判定・4イメージ同定・5具体例同定・6推論）を意識した授業を公開し、校内研修だけでなく妙高市教育研究会での研修を通して指導力を高めていく。また、「妙高型イエナプラン教育」を可能なところから導入し、効果と課題を検証する。

新井中学校を会場にした道徳の指定研究（2年次）「語り合いを通して、よりよい生き方を求める生徒の育成」の主題にせまるため、市内中学校3校の研究を共有し、研究発表に向けて、妙高市教育研究会とも連携し研究を推進する。

2 研究活動の概要

(1) 妙高市教育研修会【読解力の育成】

○第1回（4月24日）春の一斉研修 各教科における研究主題及び研修計画の立案

○第2回（8月2日） 夏の一斉研修 講演会

・演 題 「どうする低学力～教科書程度は読み解かせる先行学習～」

・講 師 授業高度化支援センター 代表 鎬木 良夫 様

○第3回（9月～11月） 秋の研修旬間（部会ごとに開催）

【理科部会の実践例】小学校部会と連携し、授業高度化支援センター代表 鎬木良夫 様をお招きし、読解力の視点を意識した授業公開と協議会を行った。

(2) 妙高型イエナプラン教育

○第1回イエナプラン教育に係る研修会（5月27日新井南小学校、28日妙高高原小学校、妙高高原中学校）

○第2回イエナプラン教育に係る研修会（11月17日妙高高原小学校、妙高高原中学校、18日新井南小学校）

イエナプランは、「自分の良さや弱みを知るだけでなく、他者の良さを認め、社会で協働して積極的に活動できる大人を育てる」というねらいがある。妙高市では、イエナプラン教育の目指す特徴をすべて取り入れるのではなく、その特徴をよく吟味し、学校や生徒の実態に即して、その一部のエキスを積極的に取り入れた授業づくりや教育課程の編成を目指している。モデル校を新井南小学校に指定し、今年度は妙高高原小学校と妙高高原中学校を新たに地域推進として、単元内自由進度学習をできるところから取り入れた実践を行う。

○国語授業公開 第1学年「少年の日の思い出」授業者 妙高高原中学校教諭 上山晃平(12月6日)

指導者 上越教育事務所指導主事 草間 敬 様

妙高市教委育委員会指導主事 陸川昌克 様

- ・「全員が同じ課題で同じペースで取り組む授業と異なる課題に一人ひとりのペースで取り組む授業では何が変わる。」というテーマで、生徒の課題解決に向けた工夫と学習意欲について単元内自由進度学習の有効性について協議した。



○社会授業公開 第3学年「市場のしくみとはたらき」授業者 妙高中学校教諭 竹内ひなた(12月12日)

指導者 妙高市教委育委員会指導主事 陸川昌克 様

- ・「物の価格はどのように決まるか」について、前半は個人でタブレットを活用して調べたことをまとめ、後半は班で確認やチャレンジ問題に取り組むなど、単元内自由進度学習で学習を行った。



(3) 中教研指定研究

○道徳(2年次) 会場 新井中学校(11月15日)

- ・研究主題 「語り合いを通して、よりよい生き方を求める生徒の育成」
- ・授業者 1年3組「もったいない」(内容項目 B 思いやり、感謝) 教諭 北島 大樹
2年2組「夜の果物屋」(内容項目 B 思いやり、感謝) 教諭 山口 達也
3年3組「家族の思いと意思表示カード」(内容項目 D 生命の尊さ) 教諭 岩片 仁美
- ・指導者 上越市立板倉小学校 校長 廣井 弘敏 様他3名
- ・協議題 「深い学びにいたる授業」、研究主題にむけて、本時の「発問の工夫」「ICTの活用」「振り返りの確保」などの手立てが有効であったか
- ・研究推進委員会を今年度11回開催し、妙高市3中学校の研究推進委員が中心となって指導案検討を行った。当日の指導案によるプレ授業を妙高高原中学校と妙高中学校で行い、協議題に迫る授業を目指した。



3 成果と課題, 次年度の取組(方向性)

〈成果〉

- 中教研指定研究「道徳」は、3中学校の連携した授業検討会を通して、目指す方向性を共有できた。
- 市教育委員会と市学校教育研究会が連携し、鏑木良夫様を招き、読解力と先行学習の研修を行った。各学校の校内研修において読解力を意識した深い学びの授業を目指すことができた。
- 妙高型イエナプラン教育は、モデル校の実践から単元内自由進度学習や協働的な学び等を取り入れ、深い学びの授業を進めようとする姿が見られた。

〈課題〉

- 中教研が目指す「深い学び」と妙高型イエナプラン教育と読解力の育成は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて大いに関わりがある。そのことを、各校や各教師に一層の浸透を図ることが課題である。

〈次年度の取組(方向性)〉

妙高型イエナプラン教育による「深い学び」の授業づくりの有効性を探っていきたい。

1 地区中教研の活動

(1) 第1回郡市会長会 4月30日(火) アトリウム長岡

- ①令和6年度中越地区中学校教育研究会 正副会長の選出について
- ②令和6年度研究指定について(会場校・開催期日・会の持ち方の確認)
- ③令和7年度以降の研究指定について(指定郡市・会場校の確認)
- ④情報交換(令和6年度郡市中教研活動について、地区運営推進委員会の持ち方等)

(2) 臨時郡市会長会 10月24日(木) アトリウム長岡

「指定研究の在り方改善プロジェクト」を受けての情報伝達・意見交換

(3) 第2回郡市会長会 12月16日(月) アトリウム長岡

- ①令和5・6年度 指定研究の成果と課題について
- ②令和7年度以降の研究指定について
- ③弘済会研究助成の推薦について

(3) 令和6年度中越地区運営推進委員会 12月16日(月) アトリウム長岡

令和6年度指定の推進委員と令和7年度の推進委員・会場校教科領域担当者のグループで、郡市会長がアドバイザーとなり、令和7年度の取組の方向を協議した。フレームワーク「KPT」を用い、現在の進捗状況や今後の課題を洗い出し、具体的に何に取り組むのかを明らかにしていった。

令和6年度指定の推進委員が経験を基に意見を述べたり、郡市会長がアドバイスをしたりすることで、以下のように、内容の濃い協議を行うことができた。

【議題1】研究推進に関わって、次の点について知見や目指す方向性を明らかにする。

- ①各教科領域で見られた「深い学び」の具体 (※「深い学び」に至らなかった「学び」は?)
 - ②「深い学び」が生まれた要因 (※深まらなかった要因は?)
 - ③さらに「深い学び」としていくための方策
- それぞれの協議では、次のような知見が出された。(一部抜粋)

- ・ペア、班での話し合う場において、「観点」を示すことでより焦点化されるが、それ以外のことに話し合いが広がらないので、課題内容と合わせ吟味する。
- ・より「深い学び」としていくために「本時の問い」で終わることなく、「単元を貫く問い」にもどれるようにすることが大切である。
- ・「振り返り」の場면을授業の終末だけでなく中盤に行うなど、タイミングを見直すことで生徒にとって身近なものとしていく必要がある。
- ・検討会と模擬授業を重ね、記録を共有することは有効であり、授業者の役割や働きかけの改善につながる。

【議題2】運営方法に関わって、次の3点を明らかにする。

- ①R7年度の指定研究に関するおおよその見通し。
 - ②研究推進委員会の効果的なもち方、研究発表会当日の充実した協議会のもち方について。
 - ③研究2年目の運営に関わっての疑問、課題、今後の不安(予算執行、会場の準備、当日運営等)。
- それぞれの協議では、次のような知見が出された。(一部抜粋)

- ・研究を進めるにあたり、2年次の一回目の研究推進委員会を早めに設定することが不可欠。
- ・7月中旬には授業プランが確立し、「class」の原稿下書きができるよう、指導案がある程度形となっていると良い。
- ・課題によって、研究推進委員以外の職員や小学校教員等にも参加してもらうことは有効である。
- ・研究推進委員会で授業の構想や方策を共有のためにも、授業の「振り返り」にICTを使用すると良い。

2 県中教研指定研究等事業による研究会

教科・領域	郡市	学校名	期日	開催形式	参加者数(他郡市)	備考
国語	魚沼	小出中学校	11月1日(金)	参集	57(34)	3学年
数学	長岡・三島	刈谷田中学校	11月13日(水)	参集	46(15)	3学年
道徳	見附	見附中学校	11月20日(水)	参集	66(30)	3学年
特別活動	小千谷	南中学校	11月21日(木)	参集	83(40)	2・3学年
技術・家庭	長岡・三島	宮内中学校	11月27日(水)	参集	42(10)	3学年

3 地区中教研の成果と課題、次年度の取組(方向性)

＜成果＞

- ・研究推進委員が中心となり、授業校だけでなく指定を受けた郡市全体で生徒のアセスメントを行ったり、研究を進めたしたりすることで、多くの示唆を得ることができた。また校長会で随時進捗状況を伝え、各校に伝達していた郡市もあり、有効であった。
- ・クラスルーム、リモート会議、ビデオ録画等を活用し、研究推進委員の情報共有を図ることができた。
- ・ICT機器の活用し様々なツールを効果的に使うだけでなく、ICTとアナログそれぞれの良さを組み合わせた授業実践が複数あり、生徒の学びを深めることに繋がった。
- ・どの協議会でも、対面による小グループでのファシリテーションが行われ、グループの編成やフレーム工夫により活発な議論が行われ、参会者の学びが深まった。
- ・各教科の成果については次のとおり(一部抜粋)。

国語	・話し合い活動において意見と根拠の関係や情報の信頼性などを確認するチェックシートが、話し合いの内容を焦点化し、活発なものになった。 ・講師から模擬授業・講演をしていただいたことで、批判的なものの見方や、情報の取捨選択における視点の理解を深めることができた。
数学	・2年間継続した図形指導を行った中で、単元に対する提案性をもった意味のある研究となり、「普段の授業をよりよく」する実践ができた。 ・思考の流れを意識するための知識カードを作成したことで「型をつくらぬ証明」となり、深い学びの姿に近づくことができた。
道徳	・ねらいづくりと発問に焦点を当てた単元構想シートの活用について、各校で研修を進め、会員に提案することができた。 ・ICT機器を活用して、自分の考えを何度も修正したり、他の意見を眺め話し合ったりした。適切な活用が授業の展開をスムーズにし、生徒の思考を深める一助となった。
特別活動	・発表校以外の学校全てに公開授業をしてもらったことで、回数を重ねるごとに主題に迫ることができた。 ・キャリアアンケートの実施により、生徒の意識変容を比較・分析することができた。アンケート結果では、自己実現に関する肯定回答が増加した。
技術・家庭	・研究主題に地域性を加えることで、学校ごとで題材を代えることが可能となり実践ごとに手立てや手法を蓄積できた。 ・生徒が解決したい課題に取り組んでいくにつれて、新しい課題の発見や別な問題点への気づきが生まれ、それらが連動するやりがいのあるものとなった。

＜課題＞

- ・研究会の運営面において、要項や名簿、会場表示等デジタルデータの引継ぎができると良い。参加者の学びを深め、協議会を通しての授業者への還元を高めるために、前時までの活動や生徒の変容を伝える方策を工夫し、提示する必要がある。
- ・研究推進に関する内容を、郡市内会員に広めていくことが必要である。
- ・指定研究が郡市内会員の資質向上に寄与できるよう、郡市教研とより効果的な連携を図る必要がある。

＜次年度の取組(方向性)＞

- ・上記の課題に正対し、「深い学びにいたる授業」、「教師が深い学びにいたる研究・研修」の実現を目指していく。

長岡市・三島郡中学校教育研究会 研究活動の概要

「深い学びにいたる授業～「深い学びの技法」を基に、生徒自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～」の実現に向けて

長岡市・三島郡中学校教育研究会 会 長 久保 英典

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- 生徒の資質・能力を確実に育むために「深い学びの技法」を基に、共通の手立てを構想し、その有効性について、具体的に検討していく。
- 「深い学びにいたる授業～「深い学びの技法」を基に、生徒自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～」を目指した授業実践を推進する。

<取 組>

- 各教科・領域で「深い学び」の具体、そこにいたる過程や手立てに着目して研究主題を設定し、小学校と連携しながら授業研究会、講習・講演会等を実施する。

2 研究活動の概要

教科・領域	研 究 主 題（主な活動内容）
国 語	言葉の力を追究し、自分の読みをつくる授業 （授業研究会：10月 西中 講演会：10月）
社 会	深い学びにいたる学び合う授業 ～自ら考え、意欲的に迫及する子供が育つ社会科授業のあり方～ （授業研究会：11月 栖吉中）
数 学	深い学びを実現する指導の工夫 ～数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して～ （授業研究会：10月 与板中 11月 刈谷田中…県中教研指定研究授業）
理 科	自然事象を科学的に捉え、探究する子どもの育成 ～理科の「見方・考え方」を働かせる授業づくり～ （実験体験会：8月）
音 楽	思いをもって表現する子ども （授業研究会：7月 江陽中 9月 東中 10月 越路中 いずれもオンライン 関東甲信越音楽教育研究会新潟大会参加）
美 術	思いを実現しようとする子どもの育成 （市郡小・中学生美術展：6～7月 実技研修会：9月 美術鑑賞会：11月）
保健体育	【体操・器械】 楽しさを味わうことのできる体づくり，器械運動の学習の工夫 【表現・ダンス】 ダンス指導導入部で活かせるリズムジャンプ運動 【ボール】 子どもが楽しさを味わう教師の支援の在り方 【陸上】 いきいきと陸上運動に取り組むことを支援する手立て （実技研修会 陸上競技：7月 器械運動：10月 ボール運動：11月 表現・ダンス：11月）
技術・ 家庭	持続可能な社会の実現に向けて、生活を工夫し創造する児童・生徒の育成 （授業研究会：11月宮内中（技術・家庭）…県中教研指定研究授業 講演会：11月（家庭））
英 語	「自分」にあった学びと多様な関わりを生かす学びの一体的な充実 ～実体験を伴う活動的な学びを通して～ （授業研究会・全体研修会①：10月 秋葉中 全体研修会②：11月）

道 徳	「考え、議論する道徳」への授業改善 ～深い学びにいたる学び合う授業を目指して～ (研修会・講演会：8月 授業研究会 11月 江陽中)
特別活動	自主的、実践的に集団活動に取り組み、課題解決を通してよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる特別活動の工夫 (講演会：9月)
進路指導 キャリア教育	自らの生き方を切り拓いていく児童生徒の育成 (講演会：7月)
総 合	探究的な学習をうながす指導の工夫 (スマート農業体験研修：7月 平和学習研修：8月)
学校保健	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 ～経験知をふまえた校種別グループ研修を通してコーディネーション・実践記録についての学びを深め、児童生徒の効果的な支援につなげる～ (小グループ研修会：6月～12月 研修会：7月 10月 12月)

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- 今年度も各教科・領域ごとに様々な工夫（オンラインでの授業配信、役割の明確化等）をして、活動を実施することができた。また会場に参集して直接生徒の学びを見て、語り合うことのできる授業研究会・協議会はもちろん、授業力向上に向けた魅力的な研修会・講演会を企画することで、各会員が参加しやすく、学びの多いものとなった。
- 小学校と中学校が合同で研修を行い授業スキルについて考えたり、資質・能力を育む授業の在り方について提案する研究授業が行われたりしたことで、小中の接続を意識した実践の示唆を得ることができた。

<課題>

- 働き方改革や多忙化解消を進める中でも、多くの会員が参加しやすい研究会、講演会等を企画し、運営すること。
- 研究授業において示された、各教科領域における「深い学びにいたる授業プロセス」の具体を郡市全体に広め、各校が実情に合わせ、日々の授業実践に落とし込んでいくこと。
- 教師同士の学び合いが促進されるよう、研究授業の参観の視点を明確にすることや、協議会の持ち方の工夫を行うこと。
- 小中が合同で行う研究の良さを活かし、学力観・授業観の交換や小中の接続を意識した授業構想等を推進すること。

<次年度の取組（方向性）>

上記の課題を踏まえ、研究主任を対象とした研修会で「深い学びにいたる授業」・「教師が深い学びにいたる研究・研修」が実現するための取組を推進するとともに、教科・領域ごとに研究テーマを設定し、小中合同で授業改善に向けた研修を継続する。

小中一貫教育の更なる充実～小中教職員が共に学ぶ～

三条市中学校教育研究協議会 会長 田村 和弘

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

「三条市教研」として小中教職員が共に学ぶ場を立ち上げ7年目を迎える。三条市が推進する小中一貫教育を主体的にとらえ、9年間を見通した指導、学習指導要領や新しい教育の動向を踏まえて積極的に共同研修を推進する。

<取 組>

- ・小中一貫教育の更なる充実に向けて、教職員一人一人が資質・指導力の向上に努め、三条市学校教育の目標を具現化する。
- ・学習指導要領の各教科・領域の目的を理解し、県中教研の「授業情報誌 Class・深い学びにいたる授業」を活用しつつ、授業の質的改善を積極的に進める。
- ・「三条市授業スタンダード」、「小中一貫教育カリキュラム」の自学園・自校プランを相互に情報交換し合い、改善・充実に努める。

2 研究活動の概要

(1) 活動の概要

- ・4月17日（水） 第1回審議委員会（規約・組織・事業計画・予算計画等の審議）
- ・5月2日（木） 第1回一斉研修会（部会ごとに開催、年間活動計画・各分担等の決定）
- ・5月～10月 部会研修 （部会ごとに設定、市教育センターの研修講座等の活用）
- ・10月31日（木） 第2回一斉研修会（授業公開・協議会等）
- ・3月上旬 研究成果の刊行 （三条市教研実践記録集）
- ・3月下旬 市教研準備委員会（次年度に向けた組織づくり、事業計画、予算計画）

(2) 各部会の研究主題・主な研修内容

国語	相手の話を聴き、自分の考えを深め表現できる児童生徒の育成 ～受信・思考・発信を大切にした聴き合い学び合い活動を通して ① 部会研修「学び合い」を核にした授業の在り方 ② 一斉研修 授業公開「故郷」（下田中3年）
社会	子どもが問いをもち、主体的に追求する授業 ① 部会研修「三条市授業スタンダード」にもとづいた社会科の授業づくり ② 一斉研修 授業公開「地方自治と住民参加」（本成寺中3年）
算数・数学	算数・数学の指導のつながり ① 部会研修「主体的・対話的で深い学び」実現のための授業づくりの考え方と方法 ② 一斉研修 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現
理科	見方・考え方を働かせ、主体的に問題解決に取り組む児童・生徒の育成 ① 部会研修 「状態変化・粒子概念」についての講習・実験 ② 一斉研修 授業公開「水の3つのすがた」（裏館小4年）
音楽	音楽科の表現領域における指導法の工夫～主体的・対話的に学ぶ授業の実践～ ① 部会研修「子どもの音楽性を引き出し、表現力を高める指揮法のポイント」 ② 一斉研修 授業公開「いろいろな音のひびきを味わおう」（裏館小5年）

図工・美術	造形的な見方・考え方をもって表現に価値を見出す児童・生徒の育成 ① 部会研修 テーマ「学びをつなぐ図工・美術教育の可能性」、実践発表 ② 一斉研修 授業公開「漢字 1 文字からイメージする平面構成」(第四中 1 年)
家庭・技術家庭	生活の営みにかかる見方・考え方を働かせ、生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力の育成 ① 部会研修 ICT を活用した授業実践 ② 一斉研修 授業公開計測制御システムを製作し、プログラミングする (第一中 3 年)
体育・保健体育	主体的・対話的で深い学びを誘発する授業 ① 部会研修 障害者スポーツ体験、体験を学びにつなげるための講義 ② 一斉研修 授業公開「器械運動 (マット運動)」(本成寺中 3 年)
外国語・英語	実社会で役立つコミュニケーション能力の育成～小中のつながりを意識した授業づくり ① 部会研修 学園ごとの授業検討会 ② 一斉研修 授業公開「学園ごとの公開授業」(第三中 1 年、栄中 3 年他)
道徳	「考え、議論する道徳」の実現に向けて ① 部会研修 授業研修会「授業を自分事にさせる手立て等」 ② 一斉研修 授業公開「ぼんたとかんた」(善悪の判断、自律、自由と責任)(須頃小 1 年)
生活科・総合学習	生活科・総合的な学習の時間に活用できる地域施設や題材の情報共有と活用の方策 ① 部会研修 講演会「鍛冶×造園 共存と再興」 ② 一斉研修 授業公開「おおじまクロスロードー水害から自分の命を守るー」(大島小 5、6 年)
特別活動	いじめ見逃しゼロスクール集会の在り方について ① 部会研修 旭小学校いじめ見逃しゼロスクール集会事前協議会 ② 一斉研修 旭小学校いじめ見逃しゼロスクール集会・協議会
特別支援教育	① 部会研修 動画配信による研修会「就学前、就学期の児童生徒に対するポジティブ行動支援について」 ② 一斉研修：テーマ別 (自立活動・インクルーシブ教育、通級指導) 実践レポート研修
学校保健	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と健康課題解決に向けた保健教育の取組 ① 部会研修 講演会「特別な支援を要する子どもとの関わり」 ② 一斉研修 部会員 1 人 1 人の指導実践発表
学校事務	学校・学園経営に参画するための学校事務職員の資質向上 ① 部会研修「文書事務について」 ② 一斉研修「チームビルディングについて」

3 成果と課題、次年度の方向性

<成果と課題>

「三条市教研」として全 15 研究部会を設定し、小中教職員が積極的に関わり合いながら充実した研修会を創り上げている。市が推進する小中一貫教育の更なる充実を目指し、子ども自らが未来を拓くための生きる力を一層伸ばしていきたい。一斉研修の協議会では、小学校の様子を知る職員が、中学校の授業で活躍する教え子の様子を見ることで子供の育ちの視点から情報共有ができたり、中学校教員が小学校の既習内容を生かした授業づくりをする意識が高まったりするなどの成果がみられた。

一方、運営面の課題が見られた。一斉研修で、1つの学校で2つの部会の授業公開をした学校が見られた。その際、駐車場不足が生じた。輪番で授業公開を行っているため、このようなことが生じた。次年度以降の輪番を把握し、重なりがないよう校長会等で調整したい。

<次年度の方向性>

- ・小教研・中教研で目指す授業を共有し、深い学びにいたる授業の具現に向けたカリキュラム・マネジメントを小中 9 年間と教科・領域のつながりという視点から研究を進める。
- ・同日に 1 つの学校で 2 つ以上の公開授業は行わない。

「自ら考え 心豊かに たくましく生きる 小千谷の子ども」の育成

小千谷市中学校教育研究会 会 長 若林 靖人
〃 副会長 新澤 悟

1 今年度の課題と取組

当市中教研は、中学校5校88名の会員をもって組織している。また、小学校8校・総合支援学校1校の教職員と共に小千谷市教育研究会を構成しており、互いに連携を図りながら研修活動を推進している。生徒の学力向上を課題と捉え、授業改善を柱として研究活動を推進した。

2 研究活動の概要

(1) 市教育委員会との連携による研究推進・運営

- ①各研修委員会の代表を、小教研・中教研・市教委の三者で構成し、研究内容を企画・立案・運営している。
- ②実務研修として、保健・事務・栄養の各部会について、各学校の養護教諭・事務職員・学校栄養（教諭）職員及び市教委担当者をもって構成し、実務的な研修を推進している。
- ③市教育センター等と連携しながら教育活動支援事業を企画・立案・運営している。

(2) 夏季研修会の開催：令和6年8月21日（水）

- ①会場 小千谷市民会館、市内各学校（会場参加と一部ライブ配信の視聴による開催）
- ②内容 ア 会長挨拶
イ 講演会 「阿部幸製菓の社風 新しいことに挑戦する」
講師 阿部幸製菓株式会社 常務取締役 蒔田 英之 様
ウ 分科会

(3) 部会研修の内容

教科部	研 修 内 容
国語部会	主体的に取り組む態度の見取り方や評価の付け方について
社会部会	市内巡検「ホントカ。」
数学部会	授業、評価について
理科部会	市内巡検「山崎醸造株式会社」
英語部会	デジタル教科書を活用した対話的な学習について
音楽部会	合唱コンクールに向けて取り組む曲の情報共有
美術部会	県美術大会について
保健体育部会	体育実技研修「リズムトレーニング」
特別支援教育部会	保護者との連携の在り方、校内委員会について
道徳部会	「郷土を愛する態度」を育むための地域教材の開発と検討

※市教研の組織とは別に令和5、6年の中教研の指定研究「特別活動」を推進するため、令和5年度に、特別活動部会を設置した。その研修内容については、(4)に示す。

(4) 新潟県中学校教育研究会指定「特別活動研究発表会」

①研究主題：夢や希望をもち、なりたい自分を実現しようとする生徒の育成

～特別活動を要するキャリア教育の視点から～

②協議会，内容

第1回研究推進会議	研究組織と兼官計画の確認 本発表の授業構想
第2回研究推進会議	片貝中学校公開授業指導案検討 研究仮設の検討
公開授業 第3回研究推進会議	片貝中学校公開授業・協議 各校取組のまとめ方検討
第4回研究推進会議	千田中学校公開授業指導案検討 研究発表会・役割分担の概要
公開授業 第5回研究推進会議	千田中学校公開授業・協議 研究発表会協議題検討
第6回研究推進会議	研究発表会実施計画・役割分担
研究発表会	全体会 公開授業 協議会 全体指導
第7回研究推進会議	指定研究の成果と課題

3 成果と課題，次年度の取組(方向性)

成果としては，市の「おぢやっ子教育プラン」を基に，市教育研究会及び市教育委員会と密接な連携を図りながら，目指す子どもの姿の実現に向けて研修を推進することができた。しかし，部会研修の回数や時間が限られており，年間を通して継続的に課題に取り組む時間の確保が今後も課題である。

また，令和5・6年度県中学校教育研究会指定「特別活動」では，南中学校だけでなく市全体で取り組み，研修を深めている。昨年度，市教育研究会に「特別活動部会」を新たに設けた。各校の協力により，今年度の発表を終えることができた。

「学び合う授業の創造」

加茂市南蒲原郡中学校教育研究会 会 長 田中 裕之

〃

副会長 小野 浩

1 今年度の課題と取組

〈今年の課題〉

- 学び合う授業づくりを推進するため、市教研・町教研と連携
- ICT の効果的活用による、生徒の資質・能力の育成
- よい人間関係を構築する力の育成

〈取組〉

- 市教研や町教研との連携による研修活動（研修への積極的参加による授業改善）
- 中越教育事務所の重点教科訪問における国語科研修の支援

2 研究活動の概要

○教科・領域の取組

〈加茂市〉

教科・領域	研究主題
国 語	国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現
社 会	加茂の産業の理解を深める
数 学	全国学力状況調査問題の分析を通じた授業改善 中越教育事務所重点教科訪問
理 科	指導力・実践力の向上につながる技術の習得
生活・総合	加茂の学習素材について見識を深めよう
音 楽	小中の発達段階に応じた歌唱指導の工夫
保健体育	健全な心身の発達を促すための健康教育の工夫
外 国 語	小中の英語の学びのつながりを意識した指導の工夫
道 徳	道徳科の授業づくりと評価について
特別支援	障がいのある方々の就労や社会参加の現状を学び、小中学校における児童生徒の自立支援に生かす
養護教諭	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 ～つながりを活用して困り感を解消し、健康相談に必要な力量を高める～
事務職員	学校教育における機能的な教育環境
栄養職員	地場産物を活用した学校給食献立の充実

* 研修会・講演会は、夏季休業中に集中開催（但し各教科・領域ごとに会場は分散）した。

* 夏季休業中に指導者を招聘し、「特別支援教育講演会」を開催した。

* 市指定研究発表会を中学校区で実施した。（2年目 葵中学校区）

〈田上町〉

教科・領域	研究主題
学力向上	思考力・判断力・表現力と学びに向かう力の育成
健康推進	心身の健康を保持増進する力の育成
ICT・プログラミング教育	ICT 活用の推進 プログラミング教育プランの実践と検証
幼小連携	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践・検討・修正
小中連携	よい人間関係を構築する力の育成
特別支援教育	自分の良さやできることを見つけ、次へのステップへ向かう力の育成
事務	学校事務の適正化・効率化

＊「田上の 12 か年教育（田上の子どもに育む 5 つの能力と 4 つの行動力）」に基づく取組を行う。

○中越教育事務所重点教科訪問（数学）

- ・授業校 7 月 須田中 9 月 田上中 10 月 若宮中 七谷中 11 月 葵中 12 月 加茂中
- ・指導者 中越教育事務所 笠井 繁 指導主事
- ・研究主題 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業の工夫

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

〈成果〉

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業の工夫として、ICT を使う場面が増え、授業における ICT の活用につなげることができた。
- 教科部で公開授業・研究協議の回数を重ねることで、小中及び教科部の連携強化につながった。
- 外部講師・指導者を招聘して研修会を開催することで、より専門的な技術の習得につながった。

〈課題〉

- 今後は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る具体的な方策を共有するとともに、学力の向上につながる授業改善や研修を意図的に計画することが必要である。
- 授業における ICT 活用等の各教科・領域で進めた研修内容を共有できるように検討する。
- 一教科一担任の小規模校は、自校で研修を進めることが困難である。近隣校などと相互研修が可能な体制を検討する。

〈次年度の取組（方向性）〉

- 上記課題を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業の工夫を推進する。また、教科・領域ごとに研究テーマを生徒の実情に合わせて見直し、ICT を活用した授業改善をさらに推進する。

深い学びにつながる、協働的な学習を目指して

十日町市・中魚沼郡中学校教育研究会 会 長 佐藤 栄策

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

学習指導要領の趣旨に即した深い学びにつながる、教科の特性を活かした協働的な学習の追究

<取 組>

- (1) 郡市教育振興会や市・町教育振興会や行政、中高連携事業との連携の促進
- (2) 各事業を通じた、郡市内の小学校や高等学校、教育センター等との連携の一層の充実

2 研究活動の概要

- (1) 授業力向上研修会（郡市中教研としての独自指定研究）

教科・実施日	研 修 内 容
社会 10月11日（金）	○授業研究：郡市中教研社会科部研究授業 研究主題 「主体的・対話的な取組で、深い学びを実現し、自己の成長が実感できる生徒の育成に向けて」 会 場 十日町市立中里中学校 公開授業 第3学年1組 単 元 名 「国の政治の仕組み～法律や予算ができるまで～」 授 業 者 小河 一貴 教諭 参 加 者 郡市中教研社会科部員
理科 11月6日（水）	○授業研究：郡市中教研理科部研究授業 研究主題 「主体的・対話的に学びを深める生徒の育成に向けて」 会 場 十日町市立松代中学校 公開授業 第3学年1組 単 元 名 「化学変化とイオン 酸・アルカリとイオン」 授 業 者 牧野 愛理 教諭 参 加 者 郡市中教研理科部員、市理科センター所員 指 導 者 十日町市立川西中学校長 村山 貴芳 様
道徳 1月29日（水）	○授業研究：郡市中教研道徳部研究授業 研究主題 「主体的に捉え、考えを深める授業づくり」 会 場 十日町市立松之山中学校 公開授業 第7学年（中学1年） 単 元 名 「ごみ箱をもっと増やして」（東京書籍 新しい道徳1） C（10）遵法精神、公德心 授 業 者 安村 尚樹 教諭 参 加 者 郡市中教研道徳部員 指 導 者 教科教育専門監 春日 哲 様（長岡市立秋葉中学校）

(2) 中高連携研修会（郡市内中学校・高等学校連携事業としての授業公開又は研修会）

教科・実施日	研 修 内 容
数学 10月30日（水）	○授業研究：郡市中高学習指導連絡会・公開授業（数学部会） 会 場 県立松代高等学校 公開授業 第1学年A組・B組 単 元 名 数学Ⅰ「2次関数の最大・最小」 授 業 者 松代高等学校数学科教諭3名（習熟度別） 参 加 者 郡市中教研数学科部員、郡市内高等学校数学科教諭他
英語 11月15日（金）	○授業研究：郡市中高学習指導連絡会・公開授業（英語部会） 会 場 十日町市立下条中学校 公開授業 第3学年A組 単 元 名 NEW HORIZON 3 Unit5 “A Legacy for Peace” 授 業 者 丸山 浩市 教諭 参 加 者 郡市中教研英語科部員、郡市内高等学校英語科教諭他
国語 11月29日（金）	○授業研究：郡市中高学習指導協議会・公開授業（国語部会） 会 場 十日町市立南中学校 公開授業 第1学年1組 単 元 名 「比喻で広がる言葉の世界」 授 業 者 牧 周民 教諭 参 加 者 郡市中教研国語科部員、郡市内高等学校国語科教諭他
保健体育 1月29日（水）	○授業研究：郡市中高学習指導連絡会・研修会（保体部会） 会 場 県立松代高等学校 研修内容 「学校における心肺蘇生教育の必要性について」 指 導 者 新潟PUSHプロジェクト 渡邊 勝久 様 参 加 者 郡市中教研保体科部員、郡市内高等学校保体科教諭他

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

＜成果＞

- ・ 県中教研の指定を受けずとも、毎年、郡市独自に研究を指定している。教科担当が1人しかいない中学校（特に若い教員）にとって、郡市内の横のつながりが強まることは非常に有益である。
- ・ 郡市内の高等学校・中等教育学校4校と、ローテーションや規約を定めて共同研究（研修）を継続している。中高の互いの実態理解や、接続部分で必要なことを中心に共有を図った。また、中学校でよりよい授業を目指して完結するだけでなく、高等学校にもそのような中教研全体の取組や流れについて理解してもらえる機会となっている。
- ・ 小学校や特別支援学校を含む郡市教育振興会の研修との関係性について、整合性を図った。

＜課題＞

- ・ 郡市中教研の総会が行われないため、県中教研の示す深い学びの技法を基にした授業づくりについて、経緯や趣旨を説明する場がなく、郡市中学校長会を通じての周知となった。そのため、研究に十分反映できず、「前回通り」で済ませようとする教科部も見られる。中学校長会だけでなく、各部長も通じて県中教研の刊行物等を熟読し理解させる必要を強く感じる。

＜次年度の取組（方向性）＞

- ・ 令和7・8年度県中教研指定研究「数学」について、郡市中学校長会等と連携した組織を構築して研究を進め、各校の授業力向上を目指す。

多面的・多角的に自己の考えを練り上げる生徒の育成を目指して

見附市中学校教育研究会 会 長 有本 千晴

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- (1) 各校の研究主題に基づく確かな学力を身に付ける研究を推進する。
- (2) 見附市の教育で目指す「ふるさと見附を愛する子ども」「世に役立つことを喜びとする子ども」を育成する。

<取 組>

- (1) 全国学力・学習状況調査、NRT、CRTなどの検査の分析と対策の実施
- (2) 県中学校教育研究会指定研究中越地区道德部会（2年次）の研究の推進と研究発表会

2 研究活動の概要

- (1) 見附市教育委員会、見附市教育センター、見附市校長会と連携した取組
 - ① 「師がく」：見附市が学力向上の目標に位置づけている「教師の10ヵ条」の視点から、嘱託指導主事、外部指導者がマンツーマンで一人年間2回の授業改善研修を実施した。
 - ② 中学校重点教科（英語）研修：中越教育事務所の指導主事が講師として、各校1回の授業改善研修と全体研修1回を実施した。
 - ③ 「4時から夢塾」：見附市教育センターが主催する教科や領域の課題に関する研修に参加した。

期日	教科等	研修内容	講師
5月23日（木）	学校経営	教育課程編成のポイント	新潟大学名誉教授 宮 菌 衛 様
5月31日（金）	理科	理科学習の授業改善～生物学的な視点から～	県立教育センター 指導主事 須貝 哲二 様
6月11日（火）	英語	I C T（オクリンク）を活用した英語授業	見附市立見附小学校 教諭 渡邊 優希 様
6月24日（月）	道德	道德の授業とミニ講座	新潟大学教育学部附属長岡中学校 教諭 藤 槻 悠太 様
6月27日（木）	総合	「アントレプレナーシップ教育」とは何か	新潟県教育庁義務教育課 指導主事 岩野 学 様
7月3日（水）	教育相談	「子どもとの関係を再構築する」	長岡市立青葉台小学校 校長 古田島 真樹 様
7月17日（水）	特別支援教育	「私と特別支援教育」	見附市立見附特別支援学校 校長 月岡 秀也 様
7月23日（火）	学校保健	「子どもの心と体の健康」	長岡赤十字病院 医師 田中 篤 様
7月29日（月）	教育相談	「子どもへの寄り添い方」	心理カウンセラー 寺島 幸優 様
11月21日（木）	数学	師範授業	新潟大学附属長岡中学校 教諭 白井 康智 様

- ④ 見附市教育委員会幼保園小中連携合同研修会
ア テーマ：「子どもの多様性と発達障害」
イ 講師：新潟大学教授 有川 宏幸 様
- (2) 県中学校教育研究会中越地区道德部会指定研究（2年次）
 - ① 基本方針：指定研究が、生徒の資質・能力をはぐくむ「深い学びにいたる授業」のモデルとなることにより、会員一人一人の研修意欲の高揚と教員の資質・能力の向上を目指す。
 - ② 研究主題：「多面的・多角的に自己の考えを練り上げる生徒の育成を目指して」
 - ③ 指導者
上越教育大学教職大学院 教授 早川 裕隆 様
新潟県教育庁中越教育事務所学校支援第2課 指導主事 丸山 俊 様
上廣道德教育アカデミー 特任准教授 菅原 友和 様
長岡市立秋葉中学校 道德教育専門監 春日 哲 様
 - ④ 研究推進体制

- ア 各校の道德教育推進教師、会場責任者、授業者が推進委員会のメンバーとなる。
- イ 5月から1月まで、各校で1回以上の授業研修を実施し、指導者から御指導いただく。
- ウ 8月19日（月）市中学校教育研究会道德教育講演会を実施し、会員全員が研修する。
- エ 11月20日（水）会場校で、2年次研究発表会を実施する。

⑤ 研究推進委員会の実施

期日	会場校	内容
3月5日（火）	オンライン	ア 教材解釈についての講義 講師：上越教育大学教職大学院 教授 早川 裕隆 様
4月23日（火）	南中学校	ア 2年次の研究推進体制や予定 イ 研究主題、研究方法等の協議
5月14日（火）	南中学校	ア 全県副部長会の内容の伝達 イ 単元構想シートの作成
6月4日（火）	南中学校	ア 上越教育大学教職大学院教授 早川 裕隆 様の御指導（紙面） イ 2年次研究発表会の指導案及び模擬授業と協議会運営 ウ 研究誌「Class」の原稿点検
7月2日（火）	今町中学校	ア 模擬授業及び振り返り イ 見附市立中学校道德教育研修会運営の協議 ウ 研究推進費の執行について
9月10日（火）	西中学校	ア 模擬授業及び振り返り イ 2年次研究発表会指導案、運営の協議
10月11日（金）	見附中学校	ア 模擬授業及び菅原特任准教授の御指導 イ 2年次研究発表会運営の協議
11月15日（金）	見附中学校	ア 2年次研究発表会準備
11月20日（水）	見附中学校	ア 2年次研究発表会
12月上旬～ 1月中旬	南中学校	ア 2年次研究推進の振り返り イ 研究のまとめと報告

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- (1) 研究推進委員が、相互によく連絡し合い、計画的に研究を進めようと努めた。
- (2) 指導者として、上越教育大学教職大学院教授 早川 裕隆 様、新潟県教育庁中越教育事務所学校支援第2課指導主事 丸山 俊 様に加えて、上廣道德教育アカデミー 准教授 菅原 友和 様、長岡市立秋葉中学校 道德教育専門監 春日 哲 様に御指導いただいた。
- (3) 市中学校教育研究会が、全会員を対象に早川教授から御講演いただいた。市立中学校全体での研修で、次のことを重点的に御指導いただいた。御講演を通して、道德の授業で主題、ねらい、中心発問を決めるときの重要なことを具体的に学ぶことができた。
 - ① 授業のねらい（道德的価値）を踏まえ、生徒に何について考えさせ、何に気付かせたいかを明確にもつ。中心発問やそれに至るまでの発問構成が具体的にになる。
 - ② 年間指導計画の「指導過程と指導方法」に結果としてつながる。
 - ③ 「評価」のための「観点」となる。
 - ④ 役割演技を通して、現実的体験をする。認知、感情、行動が同時に働き、道德的価値を理解して、自分自身の生き方につなげることが実感される。
- (4) 2年次研究発表会で、研究概要説明の運営や授業がよく構成されていた
 - ① 研究概要の説明
 - ア 単元構想シート、教材や資料について説明した。それから、教科書の題材を取り扱った映像を参加者に見ていただいた。
 - イ 生徒の意見を可視化する方法として、1人1台端末の活用を提案した。
 - ② 授業
 - ア 教科書の題材の事後を取り扱った映像が教材として大きな効果をもたらし、生徒がテーマをしつかりと理解して考えた。
 - イ 予備発問と中心発問に対する意見を、会場の全員が共有した。生徒が、自分の意見をもつとともに、

つぶやいたり反応したりしながら話し合った。

ウ 映像の教材を通して、「大切なことは何か」「自分は何を知りたいか」「さらによりよい方法があるのではないか」「もっと考えたい（調べたい、知りたい）」そのために「他の人の考えや気持ちを知りたい」という、問題の本質に向かう態度で生徒が考えて発言した。

<課題>

- (1) 協議会で参加者が協議する時間を十分にとれなかった。
- (2) 「授業構想シート」を汎用的に活用し、道徳の授業改善に取り組むことには至らなかった。

学級づくりと授業改善の相互作用による不登校防止と学力向上への取組

魚沼市中学校教育研究会 会 長 栃倉 敦
同 副会長 小野塚 満

1 今年度の課題と取組

〈今年度の課題〉

- 授業改善による学力向上と、「新・温かい学級づくり」の推進による不登校防止
- 〈取組〉基礎・基本の定着及び、深い学びを導く I C Tを活用した授業実践
- 教科部会や各種教育部会における研修事業の推進
- 重点教科等の指定事業の推進

2 研究活動の概要

(1) 重点教科等の活動

魚沼市教育振興会の活動と連動して、各教科部会と各種教育部会を実施している。毎年、各教科や各種教育から重点教科・領域を決め、活動の充実を図っている。今年度の重点教科・領域は、「国語」「外国語・英語」「音楽」「総合」「特別支援教育」「学校保健」である。

① 国語 新潟県中学校教育研究会指定研究の2年次に当たり、研究主題を「情報を整理し、自分の考えを表現できる生徒の育成」として研究発表会を行った。

- ア 第1回 研究推進委員会（期日：6月4日（火）会場：小出中学校）
内容：1年次の成果と課題の確認、2年次の年間計画の作成
- イ 第2回 研究推進委員会（期日：7月22日（月）会場：小出中学校）
内容：研究会当日の指導案検討
- ウ 第3回 研究推進委員会（期日：8月20日（火）会場：小出中学校）
内容：研究会当日に向けた準備と打ち合わせ
- エ 第4回 研究推進委員会（期日：10月8日（火）会場：小出中学校）
内容：プレ授業参観と協議会及び、研究会当日の運営と役割分担の確認
- オ 新潟県中学校教育研究発表会（期日：11月1日（金）会場：小出中学校）
授業者：小出中学校 教諭 山本 祐作
単元名：複数の情報を関連付けて考えをまとめる～「魚沼紹介ポスター」を作ろう～（現代の国語三省堂「情報社会を生きる」より）
指導者：中越教育事務所学習支援第2課長 山崎 寿徳 様
魚沼市教育センター 統括指導主事 江田 浩 様

- カ 第5回 研究推進委員会（期日：11月19日（火）会場：小出中学校）
内容：研究成果と課題のまとめ

② 英語 中越教育事務所の重点教科訪問を受け、「主体的・対話的で深い学びのある英語授業の実践」をテーマに、市内の中学校がチームとして協働し、I C Tを活用する等、授業改善と指導体制の見直しに取り組んだ。

指導者 中越教育事務所 指導主事 小磯 雅浩 様
魚沼市教育委員会 指導主事 浅井 千鶴 様

- ア 第1回 5月14日（火） 授業改善委員会 魚沼市役所3階会議室
- イ 第2回 9月3日（火） 魚沼北中学校 授業者：教諭 井口 真紀
- ウ 第3回 9月30日（月） 湯之谷中学校 授業者：教諭 板垣 樹
- エ 第4回 10月8日（火） 小出中学校 授業者：教諭 星 里絵
- オ 第5回 10月29日（火） 広神中学校 授業者：教諭 荒川 蓮
- カ 第6回 11月25日（月） 堀之内中学校 授業者：教諭 猪狩 直哉

③ 音楽 「器楽」の領域におけるギターの専門性向上を重点として研修を行った。

- ア 第1回部会 4月17日（水） 湯之谷小学校 活動計画の検討と情報交換
- イ 第2回部会 8月20日（火） 会場：広神中学校
研修：「ギターの演奏を楽しもう」
講師：小千谷市立南小学校 教諭 大友 歩 様

- ④ 総合 「魚沼大好き！よく遊び、よく学び、チャレンジする子」の育成を目指す授業づくりを行い、小学校の生活科との連携を取りながら合同研修を進めた。
- ア 第1回部会 4月17日(水) 湯之谷小学校 活動計画の検討と情報交換
- イ 第2回部会 8月20日(火) 宇賀地小学校
- 内容：生活科・総合的な学習の時間の意義
- 講師 南魚沼市立中之島小学校 教諭 武田 純弥 様
- ⑤ 特別支援教育 講演会及びトークセッションにより、愛着障害と支援について学んだ。
- 期日：8月19日(月) 小出ボランティアセンター
- 演題：「愛着障害と支援について考えよう」
- 講師：NPO法人適性育成ラボ「ふわっち」 理事
上越地域振興局健康福祉環境部 児童・障害者相談センター 所長
石橋 一 様
- ⑥ 学校保健 昨年度に続き「現代的健康課題を抱える児童生徒への具体的な支援の在り方を探る」をテーマに研修を進めた。健康教育やICT活用についての課題を明確にし、養護教諭間の連携・学び合いを活かした研修を進めた。
- ア 期日：7月30日(火) 会場：湯之谷世代間交流施設
- 内容：LGBTQの理解と対応～多様な性の在り方について考える～
- 講師：新潟県女性財団 専門員 木村いほ子 様
- イ 期日：8月20日(火) 会場：各校
- 内容：性に関する教育・ICTの活用・救急体制
- ウ 以下3つの各校で行われる講演会から希望に応じた参加
- a 期日：9月19日(木) 魚沼北中：自他の命を守るための情報モラル
- 講師：長岡市少年サポートセンター 大平 司 様
- b 期日：11月22日(金) 湯之谷小：困難を乗り越える力・レジリエンス
- 講師：新潟市スクールカウンセラー 坂井 淳子 様
- c 期日：1月17日(金) 須原小：睡眠講話「すいみんってすごい！」
- 講師：東洋羽毛 伊東 和博 様
- (2) 魚沼市教育委員会「新・温かい学級づくり支援事業」への主体的参加
- 今年度で3年目となった魚沼市教育委員会が推進するリニューアル事業「新・温かい学級づくり」の全員研修会等に参加し、WEBQの分析と実態に即した活用方法を討議した。
- (3) プロポーザル事業の実施
- 本事業は2校以上の職員が共同して行う教科等の研修であること、目的が学力向上等につながる研修であることを対象にしており、事業予算確保につながっている。
- (4) 研究成果の刊行
- 「魚沼市の教育」(A4判 42ページ)を刊行し全小中学校に配付した。主な内容は、重点教科等、各教科・各種教育、各校、学習指導センター、理科センターの活動報告である。

3 成果と課題、次年度の取組

〈成果〉

- 中越教育事務所の重点教科訪問と結び付け、各教科の研修体制を整備してきた。今年度の英語や既に効果的な取組を行ってきた教科と合わせ主体的な研修体制を構築している。
- 魚沼市が長年にわたって取り組んでいる学級づくりをベースとした授業実践が浸透している。特に学び合いの方略やかかわる中で見出す学び方が定着してきたことで、各教科の内容面での理解が話題になるなど、授業改善につながった。

〈課題〉

- 不登校防止と学力向上の取組実体が学校職員サイドに偏っている。
- 人事異動による職員の入れ替わり頻度が高く、成果の継続、発展が難しい。
- 改善や防止に意識が傾き、成功例や効果的実践の共有が不足している。

〈次年度の取組〉

- 不登校防止と学力向上の取組を、生徒や保護者、広く地域の方とも共有を深める。
- 中教研を含めた前年度までの取組実態や理念、成果と課題に基づいた実践に努める。
- ICTは、生徒の実態とその効果や意義について考察を重ねた上で有効活用を図る。

「未来を切り拓く心豊かでたくましい生徒の育成」

南魚沼郡市中学校教育研究会会長 角谷 文昭

同 副会長 小宮山 仁

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- ・学力の向上を図る学習指導の改善・充実
- ・学校課題の解決を目指す教育課程の編成
- ・主体的に学習に取り組む態度の育成と評価
- ・GIGAスクールにおける各教科等の実践の推進

<取組>

- ・本郡市中学校教育研究会は、郡市小学校教育研究会との密接な連携を取り、郡市教育振興会として共同で研究活動を推進している。
- ・年度始めに教科・領域ごとに研究テーマを設定し、年間1～3回の部会及び授業研究会等を開催した。
- ・重点教科は理科及び英語とし、各校で研究授業を行うとともに教科主任等が学力向上策等の情報交換を行った。
- ・県中教研指定研究1年次「理科」は、会場校である六日町中学校を中心に研究を進め、八海中、大和中、湯沢中、六日町中の4校で2年次公開授業に向けてのプレ公開授業を行った。11月20日（水）には、中越管内中学校委に案内を出し、六日町中にて公開授業と協議会を行い、協議会では生徒に「生きて働く知識」を身に付けられるための手立ての有効性などについて議論された。

2 研究活動の概要

(1) 総会 5月2日（木） 会場：部会ごとの分散開催

(2) 各部会 日程・会場：各部会により設定

(3) 各教科・領域の研修内容

教科等	研修内容
国語	○講演会『読む力』の育成を目指した授業づくり研修 ・講師：十日町市立川西中学校 教頭 元井 啓介 様 ○学習指導センター研修講座 No. 4 の受講をもって研修とする
社会	○実地研修「地域の資源を生かした企業の見学」 ・会場：毘沙門堂、池田記念美術館 ・第二浩和蔵の見学、質疑・応答
数学	○講演会 算数・数学授業づくり研修（中学校数学編） ・講師：附属長岡中学校 教諭 白井 康智 様 ○学習指導センター研修講座 H07 の参加をもって研修とする
理科	○講演：プログラミング教育講演会・実習 ・講師：齋藤 博 様（新潟市ユーレカ工房代表） ○授業研究 授業者：小宮山 弘毅（湯沢中）
音楽	○第66回関東甲信越音楽教育研究会新潟大会（長岡大会）に参加 ・会場：長岡リリックホール

美術	○実技研修会「アートカードを用いた対話型鑑賞と造形あそび（実技）」 ・講師：滋賀大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 教授 青木 善治 様
保健体育	○研修「バレーボール実技研修」 ・指導者：八海中学校 教諭 八子 雅敏
技術	○実技研修「生徒に実技指導をするときのポイントの押さえ方の確認」 ・講師：大和中学校 校長 青木 新一
家庭	○研修「地域素材・食材を授業に取り入れよう」 ・講師：みんなの庭代表 川島 亜希子 様
英語	○講演会「外国語学習において児童生徒が『話すこと〔やり取り〕』ができる能力を培う」 ・講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 大場 浩正 様
道徳	○「道徳科授業づくり研修」 ・講師：上越教育大学上廣道徳教育アカデミー 特任准教授 菅原 友和 様
特別活動	○講演会「自治的集団育成のための考え方」 ・講師：湯沢小学校 教頭 和田 望
生徒指導	○研修 学警連担当者会議にて研修を実施 ・内容「指導困難児童生徒の対応」「SNSトラブルの実態と対応」「交通安全上の指導」 ・情報交換を通して、確認すること「自己指導能力を高める実践の共有」
進路指導	○研修「自校でのアントレプレナーシップ教育の状況確認」 ・内容 各校の活動内容の紹介・検討 ○進路関係情報交換
総合学習	○実地研修「地域の資源等を活用した企業の見学」 ・会場 魚沼醸造（糀の活用の見学、質疑・応答）
学校保健	○講演「児童生徒のSOSを受け止めるために」 ・講師：新潟県ゲートキーパー協会 会長 長谷川 淳子 様 ○第2回情報交換会

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・県中教研指定研究1年次に当たる理科について、郡市全中学校における授業公開と研究推進委員会を開催し研究を進めてきた。その成果を郡市内だけでなく中越管内中学校に、11月20日（水）の公開授業で発表し、協議会で深めることができた。
- ・各教科・領域等において、公開授業や講演会等を通して研修を進め、自校での取組の見直しにつなげることができた。

<課題>

- ・『個別最適な学び』『協働的な学び』という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていく必要がある。
- ・タブレット端末の活用が進む学校がある一方で、なかなか活用が進まない学校も見られる。教科間での活用頻度の差も大きい。引き続き研修や活用事例の蓄積と共有を進める必要がある。

<次年度の取組（方向性）>

- ・南魚沼市学習指導センターとの連携を継続し、各校における授業公開及び研究協議会において、教師の授業力向上と生徒の学力向上を目指す。
- ・各教科等部会において、タブレット端末の効果的な活用事例を蓄積し、教科横断的に共有して活用を促す。

21世紀に求められる資質・能力をはぐくむ教育の創造

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させた授業を通して～

燕市・西蒲原郡中学校教育研究会会長
同 副会長

清水 康一
比後 慎一

1 今年度の課題と取組

＜今年度の課題＞

- ・教科等部会 … 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点からの授業づくり。
- ・領域部会 … よりよい学校生活を築くための自校での役割と生徒への専門的な支援の在り方。

＜取組＞

- ・教科等部会 … 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が深い学びにどのように結びつくかを視点とした公開授業とそれに基づく研究協議会を行う。
- ・領域部会 … 自校の課題に適切に対処できる高い専門性を養う研修会を実施する。

2 研究活動の概要

- (1) 評議員会 4月17日、弥彦中
- (2) 総会・研究部会 5月15日、オンライン
- (3) 前期部長会 6月27日、オンライン
- (4) 一斉研修会 11月6日、各会場
(道徳科：10月23日、特別支援教育部：11月28日、
学校保健部：8月8日、学校事務部：11月21日)

＜各教科・領域の研究主題等＞

部 会	会 場	研 究 主 題 ・ 内 容
国 語	燕北中	様々な学び方を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践する生徒の育成
社 会	小池中	社会科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の在り方
数 学	弥彦中	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実践する生徒の育成
理 科	分水中	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通じた資質・能力の育成～ICTを活用し他の生徒と協働しながら「主体的・対話的で深い学び」を実現する生徒の育成～
音 楽	吉田中	「主体的・対話的で深い学び」を実現する「手立て」の工夫～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還的配置による授業デザイン～
美 術	燕 中	個別最適な学び・協働的な学びから、深い学びを実現する生徒の育成
保 体	吉田中	自己課題の解決に向け、主体的に関わり合いながら、学びを深める生徒の育成
技 家	燕 中	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して、より豊かな生活に向けた知識・技能を生かし21世紀に求められる資質・能力を育む授業づくり
英 語	燕 中	目的・場面・状況に応じて自分の思いを自分の言葉で伝えようとする生徒の育成
道 徳	燕北中	自己を見つめ、多面的・多角的に人間の生き方を考える生徒の育成
特 支	分水中	生徒の実態に応じた進路指導のために、中学校で必要な支援について
学 保	吉田中	現代的健康課題を抱える生徒への支援と養護教諭の役割～健康相談対応力の向上と個別支援の充実を目指して～
事 務	燕市中央公民館	コミュニケーションスキルの向上・人と人とのつながり

- (5) 後期部長会 11月20日、オンライン

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

＜成果＞

- ・公開授業を通して、深い学びの実現のために「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行う必要があ

るという意識を部員で共有することができた。

- ・部長会をオンラインで行うことで、部長の出張に関する負担を軽減することができた。
- ・前期部長会を6月中に行ったことで、8月の各研究部の推進委員会の計画が立てやすくなった。

<課題>

- ・推進委員会で検討したり援助したりしてはいるが、それでも指導案作成は授業者の負担が大きい。
- ・生徒の姿を根拠に、学びの深まりを語り合う協議会にしていきたい。そのために授業者と参観者は、生徒の学びの深まりを見取る力を高める必要がある。

<次年度の取組（方向性）>

- ・今年度の研究主題は継続する。副題は「深い学びにいたる授業を目指して」とする。
- ・各教科・領域の課題解決を目指して研修に取り組み、より専門性を高める。

新潟市中学校教育研究協議会 研究活動の概要

「自分の力に自信をもち、心豊かな子どもを育てる中学校教育」

新潟市中学校教育研究協議会 会 長 小林 英男
同 副会長 佐藤 靖子
同 副会長 熊谷 勝利

1 今年度の課題と取組

〈今年度の課題〉

「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」の理念のもと「令和6年度新潟市立学校園教育の推進」を実践の柱に事業を推進する。

〈取 組〉

会員一人一人の研修意欲を高め、各学校の研究活動の充実を図るために共同研究を実施し、その成果や先進的な取組の情報を共有・集積し、活用する。

2 研究活動の推進

- (1) 「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」の理念のもと「新潟市立学校園教育の推進」を実践の柱に事業を推進する。
(2) 新潟市教育委員会、新潟市中学校長会から指導・助言を受け、県中学校教育研究会（以下、県中教研）と連携して事業を推進する。

3 研究活動の概要

- (1) 第1回部長会 5月2日(木) 研究の推進・運営の確認及び意見交換、各組織の運営方針の確認
(2) 第1回評議員会 5月23日(木) 運営方針・事業大綱・前年度決算等の承認
(3) 各教科・領域幹事会 5月23日(木) 各教科・領域の組織編成と事業計画作成
(4) 第2回部長会 1月16日(木) 今年度の成果と今後の課題検討
(5) 第2回評議員会 2月6日(木) 事業報告・新年度の大綱案の審議
(6) 研究成果の発行 3月 実践報告書（300部発行 各校へ3部配布）
(7) 各部の活動

①（教科等）研修会（全員参加） 日時：令和6年11月7日(木) **県中教研**：県中教研指定研究（2年次）発表会と共催

部 会	研 究 主 題	会 場	指 導 者
国 語 県中教研	学び合いを通して、生徒が言葉による見方・考え方を使って考えを深め、自らの成長を実感する国語科指導	東新潟中学校 及び Google Classroom による オンライン開催	新潟市総合教育センター 市教育委員会 学校支援課 所長補佐 指導主事 長谷川聡実 様 志田江利子 様
社 会	社会認識を高め、確かな学力を育てる授業はどうあるべきか	藤見中学校 巻東中学校	新潟大学附属新潟中学校 山潟中学校 校 長 山本 達也 様 校 長 笹川 元 様
数 学 県中教研	数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する授業	内野中学校	市立総合教育センター 岡方中学校 鳥屋野中学校 指導主事 熊谷 友良 様 校 長 小泉 浩彰 様 校 長 皆川 宏志 様
理 科	探究学習による深い学びの促進	黒崎中学校 臼井中学校 潟東中学校	市立総合教育センター 市立総合教育センター 市教育委員会 学校支援課 市教育委員会 学校支援課 指導主事 坂井 友紀 様 指導主事 緒方 猛 様 指導主事 瀬下 学 様 指導主事 高橋遼太郎 様
音 楽	感性を働かせて、仲間と共に音楽に関わり続ける生徒の育成	鳥屋野中学校 Zoomによるオンライン開催	新潟大学教職大学院 教育実践学研究科 特任教授 高橋 恒彦 様
美 術 県中教研	豊かな感性を養い、主体的に創造活動を楽しむ生徒の育成 ～往還でひらめく深化した学び～	新津第一中学校	市立総合教育センター 五泉市立村松桜中学校 中野小屋中学校 木戸中学校 指導主事 堀田 雄大 様 校 長 稲生 一徳 様 校 長 牧野 剛 様 校 長 鈴木 善士 様
保 健 体 育	課題を持ち、主体的に学び合う生徒の育成 ～深い学びにいたる、わかる・できる授業を目指して～	西川中学校	市立総合教育センター 指導主事 鈴木 亨 様
技 術 家 庭	生活を工夫し、創造しようとする生徒の育成 ～実践的・体験的な活動を通して学び合う授業～	五十嵐中学校	市立総合教育センター 市立総合教育センター 指導主事 上野 一志 様 指導主事 梅津 礼 様
英 語	つながりのある言語活動の中で、表現を広げ、学びを深めていく生徒の育成	高志中等教育学校 小須戸中学校	市立総合教育センター 市教育委員会 学校支援課 指導主事 佐藤 優子 様 指導主事 齋藤まゆみ 様
あすなろ 教 育	共生と自立 ～一人一人の特性とニーズに応じた支援～	南浜中学校 黒崎市民会館 亀田中学校	市教育委員会 特別支援教育課 早通中学校 両川中学校 岩室中学校 指導主事 小山 哲也 様 校 長 遠藤 禎 様 校 長 伊藤 裕之 様 校 長 小塚 忠昭 様
養 護	健康的な生活の行動化を促す保健教育 ～ヘルスリテラシーの向上を目指して～	木戸中学校	新潟青陵大学 看護学科 市教育委員会 保健給食課 教 授 塚原加寿子 様 指導主事 本間 道子 様
学 校 事 務	事務機能を強化し組織的な学校経営を支援する	各班各会場	白南中学校 新津第一中学校 校 長 和泉 哲章 様 校 長 佐藤 孝一 様

② 二部（領域）研修会

部 会	研 究 主 題	会 場	指 導 者	
道 徳 11 月 14 日 県中教研	豊かななかかわりを通して、よりよく生きようとする生徒の育成	黒埼中学校	市立総合教育センター	指導主事 佐久間奈々子 様
総合的な学習の時間 10 月 4 日 県中教研	問題解決や探究活動に、主体的、創造的、協働的で深い学びにいたる授業を通して、自己の生き方を高める生徒の育成	新潟柳都中学校	新潟大学 経済科学部 市教育委員会 学校支援課	准教授 伊藤 龍史 様 指導主事 齋藤まゆみ 様
生徒会活動	自発的、自治的な生徒会活動の展開及びリーダー育成	紙面研修	月潟中学校 赤塚中学校	校長 田中 良成 様 校長 小林 政広 様
学級経営 11 月 28 日	よりよい人間関係を育む学年・学級 経営の工夫～他との関わりを必要とする活動を中心として～	光晴中学校	新潟第二中学校 南浜中学校	校長 貝塚 敦 様 校長 高見 潤 様
進路指導 11 月 8 日	将来の生き方を考え、主体的に進路を選択できる生徒を育てる指導 ～キャリア教育の実践や啓発的な体験活動の充実を通して～	新潟市総合教育センター	市教育委員会 学校支援課 小針中学校 五十嵐中学校	指導主事 瀬下 学 様 校長 軽部 直幸 様 校長 斎藤 伸 様
生徒指導 10 月 18 日	「子ども一人一人の成長を促すための生徒指導」 ～自律性、社会性を育成するための取組～	横越地区公民館	国立病院機構さいがた医療センター	心理療法士 大越 拓郎 様
図 書 館	読書に親しむ子どもを育成する図書館機能の在り方	アイデア保管庫（オンライン）		
情報教育 8 月 3 日	情報機器を活用した支援のあり方 ～タブレット端末を学び合いのツールとして～	アグリパーク	市教育委員会 学校支援課	指導主事 高橋遼太郎 様
学校保健 11 月 21 日	生徒の健やかな心身の育成を目指すチーム学校の推進	紙面研修	東石山中学校 鳥屋野中学校	校長 永井 一哉 様 校長 皆川 宏志 様
教育課程 12 月 5 日	学校課題を解決する全員参加による教育課程編成・実施 ～「新潟市の学校教育」を見据えたチーム学校づくり～	スポーツ医学科学センター	市教育委員会 学校支援課	総括指導主事 畑 智 様

4 成果と課題、次年度の取組（方向性）

＜成果＞

各部においては、「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」及び「令和6年度新潟市立学校園教育の推進」に基づき、「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改革」や「個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実」の実現を図るための授業づくり、教育活動、学校運営の研究を行い、授業公開や研修会等を通して部員の資質・能力の向上を図ることができた。

また、県中教研の研究指定を受けた部においては、県中教研の研究主題「深い学びにいたる授業～生徒のよさや可能性を引き出す「深い学びの技法」を用いて～」との関連を図り、大学教員、新潟市教育委員会及び新潟市立総合教育センターの指導主事、市内外の校長等多くの方々から指導をいただきながら研究を推進し、それらの成果を部員全員で共有できるように工夫することができた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限はなく、各部は研修コロナ禍の過去数年間で積み上げた Zoom や Google Classroom によるオンライン研修と参集型の研修を、目的と内容に応じて併用して研修を進めた。参集型での授業研修が大半となり、生徒のよさを直に感じられる研修となっていた。

＜課題＞

公開授業のオンライン配信では、生徒や授業者の様子を見取る必要がある。精細な映像や音声や授業者の様子と同時に生徒の様子や反応の把握が不可欠である。今年度もオンラインを活用した研修会等で、ICT支援員の支援を受けながら公開授業のオンライン配信が開催できた。今後も新潟市教育委員会と連携を図りながら、オンラインによる研修を行う際の技術的な支援の継続や機器整備をはじめとした環境整備について模索していく。

また、市中教研の研修会や役員・幹事会等の開催については、部員の参加により学校運営に支障が生じないよう「原則木曜日」「役員・幹事会においては同一校からの参加者を5人以下にする」ことを部長会及び評議員会で申し合わせている。これらの申し合わせに基づき、各部の協力を得て一斉研修前や年度末に会議が集中しないよう見通しをもった運営に今後も努め、調整を図っていく。

＜次年度の取組（方向性）＞

上記の成果と課題を踏まえ、次年度も会員が共に学び合うことを通して、子どもたちが予測困難な未来社会を切り拓き、持続可能な社会の創り手として社会の形成に参画していくために必要な資質・能力を身に付けることができるよう研究を推進していく。それを実現するために、新潟市教育委員会及び新潟市立総合教育センター、県中教研事務局との連携を強化しながら各部の研究を支援していく。

また、研修方法については効率的かつ効果的な研修になるよう、目的や内容に応じて「参集」「オンライン」「参集とオンラインの併用」を選択するとともに、部長会等において情報共有を図りながら「持続可能な研修」の推進を目指す。運営のための各種会議についても、オンライン開催を推奨していく。

1 地区中教研の活動

- (1) 第1回下越地区中教研郡市会長会 6月11日(火) 会場：各学校(オンライン会議)
- ① 令和6年度下越地区中教研の組織の確認(正副会長、事務局等)
 - ② 令和6年度事業計画、指定研究発表会の期日及び運営等の確認
 - ③ 指定研究発表会の割り振り等の確認
 - ④ 下越中教研申し合わせ事項の検討・確認
- (2) 第2回下越地区中教研郡市会長会 12月4日(水) 会場：各学校(オンライン会議)
- ① 令和6年度事業、指定研究発表会の運営等の振り返り
 - ② 令和7年度指定研究発表会の開催日・会場校・研究推進責任者・会場校責任者の確認
 - ③ 令和7・8年度の指定研究について
 - ④ 下越地区中教研申し合わせ事項の検討・確認
 - ⑤ 在り方改善プロジェクトの報告等
- (3) 下越地区指定研究運営推進委員会 12月4日(水) 会場：各学校(オンライン会議)
- 参加者：県中教研各郡市会長(4名)
- 令和5年度・6年度指定研究 研究推進責任者(4名)、会場校推進委員(1名)
- 令和6年度・7年度指定研究 研究推進責任者(4名)、会場校責任者(5名)
- 会場校推進委員(4名)
- ① 令和5・6年度指定研究(2年次)の実践報告と成果発表(全体)
 - ② 令和7年度取組の方向性の検討(グループ別)

2 県中教研指定研究等事業による研究会

教科領域	研 究 主 題	期 日	会場校・参加数 (会場校職員除く、1人参加含む)
国語	これまで身に付けてきた読みの力を働かせ 課題解決に向けて主体的に学習を進められる国語科授業	11月27日(水)	新発田市立加治川中学校(54人)
数学	数学的な見方・考え方を働かせながら、 課題解決を図る生徒の育成	11月26日(火)	五泉市立五泉北中学校(28人)
道徳	多面的・多角的な視点をもって自己の生き方を見つめ、深い 学びに向かう生徒の育成 ～「命の尊さ」を考える活動を通して～	11月15日(金)	村上市立朝日中学校(19人)
技術	実践的・体験的な活動を通して、学びを深める生徒の育成 ～伝統文化と地域人材の活用～	10月25日(金)	佐渡市立新穂中学校(19人)
特別活動	他者を認め、望ましい人間関係を築いていく活動の工夫 ～自ら課題を見つけ、 共有して課題解決を目指す生徒の育成～	10月30日(水)	阿賀野市立水原中学校(26人)

3 地区中教研の成果と課題、次年度の取組（方向性）

＜成果＞

- ・ 各教科・領域で工夫しながら連携を図り、状況と内容に応じて、オンライン型と参集型を併用しながら、研究推進及び運営を行うことができた。
- ・ 二度の郡市会長会をオンラインで実施した。天候等に左右されず、移動時間もかからないため、今後も継続していく。
- ・ 研究発表会当日だけでなく、事前の授業や活動に研究推進委員が積極的に関わることで、効果的な研究となった。
- ・ どの協議会でも、小グループでのファシリテーションが行われ、活発な議論が行われ、参加者の学びが深まった。
- ・ 各教科の成果については次のとおり。

国語	・ I C T機器の利活用による学習ログの蓄積を実施することで、個別最適な学びが実現されていた。 ・ 一人一人の読みの力を大切にした単元デザインとすることで、学習ログを活用して自分の学習状況を把握・調整することができていた。
数学	・ 既習事項を確認した後に、身近な問題（ピザ）を提示することでズレを発生させ、課題への興味や解決意欲を高めることができた。 ・ 相似比や面積比の関係について共有、可視化することで、新たな課題へも活用しようとしていた。
道徳	・ 前時までの指導で「命の尊さ」を「生命の有限性・連続性・偶然性」として設定し、多面的に捉えさせていたことが本時に繋がっていた。 ・ 様々な登場人物の立場で考えたり、他者の考えと比較したりすることで、自己を見つめ直す場面となっていた。
技術	・ ゲストティーチャーとの関わりの中で多様な技術や技能を見ることができ、既習事項と比較し、スキルアップ・ブラッシュアップできていた。 ・ 釘を使わない接合方法に焦点を当て、推測→実践→ゲストティーチャーからのアドバイス→修正とP D C Aサイクルで仮説の検証ができた。
特別活動	・ 小学校6年生と中学校3年生の異校種のグループで話し合い活動を行うことによって、多様な考えに触れることができた。 ・ 中学生は小学生の悩みを一緒に考えたり、中学校の課題について小学生の意見を取り入れたりしながら納得解を導き出そうと学びを深めていた。

＜課題＞

- ・ 研究発表会への当該郡市郡市からの参加が少ないものがあつた。今後、研究発表会の日取りや募集の仕方など検討が必要である。
- ・ 次年度の佐渡市での指定研究の時間設定等（フェリーのりばから離れているので）
- ・ 前時までの活動や生徒の変容などを伝えられる機会を場面設定するなど参加者へ伝えられるとよい。

＜次年度の取組（方向性）＞

- ・ 指定研究の新事業計画への対応をどのようにしていくのか、準備をしていく必要がある。

確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくむ生徒の育成

新発田市中学校教育研究会 会 長 廣田 徳昭
 〃 副会長 今野由紀子
 〃 副会長 小嶋 修

1 今年度の課題と取組

- (1) 学力向上を図るために、各教科で基礎・基本を踏まえた指導法改善の具体的な手立てを採る。
- (2) 新発田市の目指す教育の実現のために、教科、領域をはじめとする学校教育全体の改善に向けて研修を進める。
- (3) 県中教研の示す「深い学びの技法」等を活用して研究会、研修会を進める。
- (4) 管理職は、今年度も引き続き積極的に部会に参加する。

2 研究活動の概要

- (1) 第1回一斉部会 : 4月23日(火) 会場 … 猿橋中学校
 内容 … 各部の主な事業計画案作成
 ・各部の部長・副部長の決定、研究主題の決定、主な事業計画案作成
- (2) 第2回一斉部会 : 11月6日(水) 会場 … 各学校
 内容 … 研究主題に基づいた事業の実施

(3) 各部の研究主題及び主な活動

研究部	研 究 主 題	月 日	会 場	主 な 研 修 内 容
国語	これまで身に付けてきた読みの力を働かせ、課題解決に向けて主体的に学習を進められる国語科授業	11.27	加治川中	中教研指定研究(2年次) ○公開授業(3年:読みを深めよう「故郷」) ○協議会
社会	社会との関わりを意識して課題を追究・解決する生徒の育成	11.6	七葉中	○公開授業(1年:ヨーロッパ州) ○協議会
数学	数学的な見方・考え方を働かせた、深い学びのある授業の実現	11.6	佐々木中	○公開授業(3年:相似な図形) ○協議会
理科	他者とのかかわりや問題解決的な活動を通して、思考力、判断力を育成する授業の在り方	11.6	豊浦中	○公開授業(1年:身のまわりの物質) ○協議会
音楽	他者との関わり合いを通して、豊かな表現力を高める指導の工夫	11.13	本丸中	○「雅楽」に関する実技研修 講師:獅子吼雅楽会 安藤 栄寿 様
美術	人とのかかわりを通して、考えを深めさせる指導の工夫	11.6	第一中	○公開授業(3年:描画材を選ぶ) ○協議会
保健体育	深い学びにいたる授業	11.6	東中	○公開授業(3年:ダンス 現代的なリズムのダンス) ○協議会
技術	学び合う活動を通して、生活実践力を高める授業の工夫	11.6	第一中	○「情報の技術」に関する実技研修 講師:ユーレカ工房 齋藤 博 様
家庭	学び合う活動を通して、生活実践力を高める授業の工夫	11.6	東中	○公開授業(3年:保育実習の振り返り) ○協議会
英語	自分の考えや気持ちを整理し、聴き手を意識しながら語句や文を用いて話すことができる生徒の育成	11.6	紫雲寺中	○公開授業(2年:Lesson5 レポートを書こう) ○協議会
道徳	考え議論する道徳を目指して	11.19	猿橋中	○情報交換 ○講義「考え、議論する道徳」 講師:本丸中 教頭 菊地 清勝 様

特別活動	集団の中で人間関係を自主的・実践的によりよいものへと形成しようとする態度の育成	11.22	第一中	○公開授業「いじめ見逃しゼロスクール集会」 ○協議会
生徒指導	いじめや不登校に対応する生徒指導の在り方	7.29 12.5	猿橋中 加治川中	○講義「弁護士と学ぼう」 講師：弁護士 三科 俊 様 ○講義「教育相談係の取組」 講師：新発田市 S S W 江端三知子様
進路指導	個に応じた進路選択の実現を図る進路指導	10.22	乙中	○二市北蒲中教研と合同での進路情報交換会
総合学習	地域と学び、社会と関わり、自立する力を育む指導	11.13	東中	○公開授業「職場体験活動のまとめ発表」 ○協議会
特別支援教育	個の特性を生かした進路の実現に向けて	8.7 11.28	猿橋中 猿橋中	○講義「ふれあい福祉センター及び相談員の職務について」 講師：ふれあい福祉センター相談員 山本香織様 ○講義「敬和学園高等学校の生徒の姿から」 講師：敬和学園高等学校 S C 森山 陽太様
養護	現代的健康課題を抱える生徒への支援と養護教諭の役割	7.30 11.8	猿橋小 住吉小	○講義「保健教育活動における ICT 活用について」 講師：新潟市立浜浦小 養護教諭 長谷川由紀様 ○ICTを活用した実践紹介 ○公開授業「がんと共に生きる社会の一員として」 ○協議会
事務	学校事務業務の適切な執行かつ学校事務職員の資質向上のための研修を行う	7.19 11.11	豊浦庁舎 豊浦地区 公民館	○事例研修「育児休業制度について」 ○メンタルヘルス、アサーション研修 講師：県労働衛生医学協会 保健師 様

(4) 研究成果の刊行 「新発田市中学校教育研究会 研究紀要」 A4判

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・ 教科の研修では、生徒に確かな力（学力・資質能力）を育むために、生徒同士の関わりや学び合いを積極的に取り入れた授業実践をすることができた。授業後の協議会も、研修主題に迫る有意義なものとなった。また、昨年度同様に教科部独自の研修を実施し、研修を深めることができた。
- ・ 領域の研修では、これまでの各校の実践に基づいた情報交換だけでなく、積極的に外部講師を招聘し、講演会等を行うことで部員の専門性を高めることができた。

<課題>

- ・ 深い学びにいたる授業の中心的な手立てとして県中教研の提唱している「学びの技法」を郡市中教研に周知するのが遅れ、活用している実践が多くなかった。

<次年度の取組（方向性）>

- ・ 今年度の方向性を継続しながら、実践、研修を通して部員の授業力の向上につなげていく。研究の有効性について検証し、「深い学びの技法20」を積極的に活用していく。
- ・ 今年度の県中教研の研究主題とその手立てを踏まえ、「深い学び」をさらに見える形にしていくとともに、教師が生徒のよさや可能性を引き出していくことができるような適切な市内の研究テーマを検討していく。

村上市岩船郡中学校教育研究会 研究活動の概要

「深い学びにいたる授業 ～生徒のよさや可能性を引き出す『深い学び』の技法を用いて～」

村上市岩船郡中学校教育研究会 会長 近 貴志
同 副会長 鳥島 泰浩

1 今年度の課題と取組

(1) <今年度の課題>

当地区の課題は、各種学力調査の結果からも顕著であるが「学力の向上」である。当研究活動をととして「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現を図り、生徒が確かな学力を身に付けるようにしなければならない。また、少子化が急速に進行しており、近い将来に各校で各教科担当者が1名しかいないという事態が予想されている。会員の研修の機会を保障し、生徒の教育の機会均等が保てる郡市であるようにしたい。

(2) <取組>

① 研究主題

「深い学びにいたる授業～生徒のよさや可能性を引き出す『深い学びの技法』を用いて～」

県中教研令和6年度研究主題「深い学びにいたる授業～『深い学びの技法』を基に、生徒が自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～」を受け、当郡市ではその具体的な実践の場として研究授業等で忠実に学びの技法を追究し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、会員の研鑽を積むこととした。

② 研究の視点

ア 深い学びにいたる生徒の姿を設定し、そのための(習得・活用・探究の学びの場を組み込んだ)単元構成を工夫する。

イ ルーブリックを示すと共に、自己の変容や学びの価値を自覚させる振り返り場面を設定する。(自己評価・相互評価)

③ 取組

ア 国、社、数、理、英の5教科部会は、研修会を3回以上(授業研究2回+理論研修1回も可)、音、美、保体、技・家、道徳は、1回以上の研修を計画し、実践を積み重ねる。

イ 教科外部会については事業内容を見直した。特に、他の関係団体・組織と重複する部会や代替可能な活動がある部会は、事業内容を削減した。

2 研究活動の概要

(1) 教科一斉部会 4月24日(水)会場は原則として各顧問の所属校での分散開催とした。

(2) 教科外一斉部会 4月下旬～5月末までの期間で、必要な部会のみ参集またはオンラインで実施した。

(3) 教科部会研修会及び教科外部会研修会 6月～12月末までの期間で、部会ごとに分散開催で行った。

(4) 県中教研指定研究2年目(下越地区・道徳)

① 授業者 村上市立朝日中学校 加納 貴文 教諭

② 指導者 下越教育事務所学校支援第2課課長 白澤 道夫 様

③ 成果と課題

ア 研究の成果

本研究では、生徒の中で漠然としている「生命の尊さ」「かけがえのなさ」の核となる部分を「生命の有限性・連続性・偶然性」と設定し、「生命の尊さ」を多面的に捉え、それぞれの面を意識させる授業を計画的に進めるなど指導過程を工夫して、生徒の理解を深めることができた。

郡市内の学校で、「人間に命とは」のプレ授業を実施した。指導案をもとに、授業公開当日に行う内容を各校に実施し、改善点と良かった点を事前に集約した。それらをもとに当日はブラッシュアップしたものにできた。当日の授業の流し方、時間配分など参考になる部分が非常に多かった。

イ 今後の課題

1年次の指導内容を踏まえ、11月に実施した授業公開では、多面的・多角的な視点をもつために登場人物の心情を把握するために心情メーターや2色に紙コップを使った。課題として、生徒の心情

を2色の紙コップだけで表現するのは難しく、また心情メーターで表される生徒の微妙な心情変化を、教師側が把握しきれなかった部分があった。

(5) 県中教研指定研究1年目(下越地区・理科)

- ① 授業者 関川村立関川中学校 兼田 朋廣 教諭
- ② 指導者 下越教育事務所学校支援第2課指導主事 鈴木 淳 様
- ③ 成果と課題

ア 研究の成果

7月に研究授業を実施し、この延長として8月に村上市理科教育センターと共催して研究を進め、11月に公開研究授業を実施した。本授業ではホワイトボードを活用した表現活動を通して、生徒の主體的・対話的で深い学びを進めることができた。

イ 今後の課題

ホワイトボードに4コマで説明画を作成して電気分解を説明する活動では、作成に時間がかかりすぎたため、1コマ目と4コマ目は指定しておき、途中の説明画を作成させるというような工夫が必要であった。2年次においては、郡市内の各校でこの4コマ説明画の作成をする授業を実践してもらい、事前に結果を集約して研究授業に臨みたい。

(6) 教科部会研修会

教科部会については年度当初の計画にしたがって、国、社、数、理、英の5教科部会は、授業研究を主とした研修会をおおよそ3回以上、音楽、保健体育、技術家庭、道徳は1回以上の授業研究を実施した。美術は理論研修を行った。

(7) 研修のまとめ

県学校支援システムのコミュニティ「村上市岩船郡中学校教育研究会」に集約する。

3 成果と課題、次年度の取組(方向性)

(1) <成果>

- ① 県中教研で進めている「深い学びの技法 20」については、全教科で取組を進め、会員に浸透することができた。
- ② 理論研修を含めて3回の授業研究協議会を実施した教科では、プレ授業・11月公開授業など複数の公開授業の機会があり、若手会員が公開授業を実践することが出来、充実した研修機会となった。

(2) <課題>

- ① ルーブリックを作成して学習意識や振り返りの意識を高めるということについては、十分に浸透できなかった。
- ② 県指定の研究授業では、郡市内外ともに、参加者が多くなるように周知・依頼を増やすことが必要であった。

(3) <次年度の取組(方向性)>

- ① 「深い学びの技法 20」については継続して研究授業に取り入れていきたい。
- ② ルーブリックの作成と活用について、郡市内に浸透するよう研修を進めたい。
- ③ 各教科の授業研究協議会の回数については、3回行うことについて、内容を再検討したい。
- ④ 県指定研究2年次、1年次とも、参加者を増やしていけるように周知・依頼を進める。

資質・能力を育む「深い学びにいたる授業」の創造

―生徒のよさや可能性を引き出すプロセスを通して―

五泉市東蒲原郡中学校教育研究会 会 長 稲生 一徳
〃 副会長 佐藤 雅秀
〃 副会長 佐藤 昌樹

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

県中教研が示した生徒の主体的な課題解決過程と、「深い学びの技法」を参考として手立てを構想し、具体化することで、より各教科の見方・考え方を働かせる授業を目指す。そうすることで、生徒のよさや可能性を引き出し、目指す深い学びに迫る授業を創造し検証していく。

<取 組>

- 授業中様々な場面において教師による効果的な介入ができるようにする。
例：見通しをもたせる場面：既習事項と比較検討するような指示
思考を深める場面：教師の意図的な問い返し
- I C Tの活用方法をより効果的なものにする。
 - ・生徒の思考の可視可
- 「にいがた学びチャレンジ」の問題を教材にした「深い学び」にいたる授業をデザインする。
 - ・より鋭角的な研究の推進

2 研究活動の概要

- (1) 理事会 令和6年4月12日(金) 総会の内容審議 (会場：五泉中学校)
(2) 総 会 令和6年4月17日(水) 教科・領域部会 (会場：村松桜中学校)

【組織の改編等】

- ・会員の負担軽減のため、領域部会は学校代表の会員のみで組織する。
 - ・授業発表校の負担加重にならないよう協議会の工夫、各校の役割分担を明確にする。
- (3) 一斉研修会 令和6年11月6日(水) 数学を除く各教科 (会場：各中学校)
(4) 県中教研指定研究 令和6年11月26日(火) 数学 (会場：五泉北中学校)

発表校	教 科	指 導 者	県中教研指定
五泉中学校	理 科	五泉市教育委員会指導主事 藤 塚 心 様	
五泉北中学校	数 学	新発田市立東小学校 校長 五十嵐 潤 様	数学(2年次)
川東中学校	国 語	五泉市教育委員会指導主事 浅間 一城 様	
村松桜中学校	保 体	阿賀町教育委員会管理指導主事 平野 智樹 様	
阿賀津川中学校	社 会	下越教育事務所学校支援第2課長 白澤 道夫 様	社会(1年次)
三川中学校	英 語	阿賀町教育委員会管理指導主事 井上 定浩 様	

※「国語、社会、数学、理科、英語」と「技能教科(今年度は保体)」が授業を公開した。

- (5) 五泉市・東蒲原郡中学校教育研究会 研究紀要第16集 令和7年2月刊行
(6) 会計監査 令和7年3月12日(水) (会場：村松桜中学校)

【県中教研指定 2 年次研究】

＜数学科の目指す深い学びの姿＞

生徒が身の回りの中的事象を数学的に捉え、既習事項を用いたり、他と協働したりすることを通して、理由や根拠を示して論理的に説明することができる姿。

＜公開授業の概要＞

授業者 知野 憲太 (五泉北中学校)

1 単元名 相似と計量 (3年)

2 ねらい

ピザの大きさと値段には相似の関係があることに気づき、「面積比は相似比の2乗であること」を利用し、数学的根拠に基づき新商品を提案することができる。

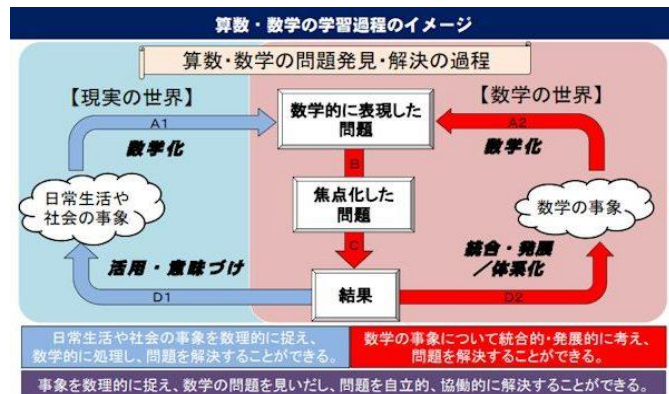
3 手立て

導 入：技法 No. 1 既習事項との「ズレ」を発生させ、「なぜ」「どのように」を引き出す。

展 開 1：技法 No. 6 ロイロノートで全体共有させ、複数の考えとの比較から正しい結論を導く。

展 開 2：技法 No. 10 新商品の開発場面で補助発問をする。

振り返り：技法 No. 13 実生活の活用を想定して、ロイロノートで意見を集約する。



＜協議会での主な指導内容＞

- 学習課題は、生徒の「問題意識」から生まれる。
- よい発問にも条件がある。(生徒に気付かせたいことを焦点化した発問)
 - ・ 生徒が答えやすい
 - ・ 友だちと助け合い、高め合う
 - ・ 自分事として考えたいくなる
 - ・ 数学的なおもしろさが見えてくる
 - ・ ポイントを捉え、まとめやすい

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

＜成果＞

- 各教科の「深い学び」という抽象化された言葉を、目の前の具体的な生徒の姿に置き換えることができた。また、各教科の「見方・考え方」をいかした探究的な学習モデルとして、県中教研の示した「深い学びの技法」を活用し授業を構想することができた。
- 国語と英語は「にいがた学びチャレンジ」の問題を教材にして、下越教育事務所指導主事の奥山順一様を指導者として計画的かつ鋭角的に研究を推進することができた。

＜課題＞

- 各教科部会の開催回数が研究の深まりになっている。
- 道徳部会や特活部会は上越教育大学の支援を受け研究を推進することができている一方で、研究や研修が形骸化している領域部会がある。

＜次年度の取組（方向性）＞

- ☆ 教師からの「問い（学習課題や単元を貫く課題など）」と、生徒からの「問い（疑問など）」に基づき「深い学びの技法」を活用し授業を構想していく。

「深い学び」にいたる授業

阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中学校教育研究会 会 長 森谷 優子

〃 副会長 村上 敏樹

〃 副会長 藤原 明

1 今年度の課題と取組

阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中学校教育研究会の昨年度の課題は、「深い学び」を実現する具体的な手立てや単元デザインの工夫であった。そこで、今年度は各教科等において、単元や題材で目指す「深い学びの姿」を具体的に研究を進めていくこととした。県中学校教育研究会「授業情報誌 Class 第8号 2023」 田中教授の特別寄稿で提唱された中学校における深い学びの在り方とこれからの授業改善の方向性を参考に、授業で生徒が実際に学んで活用できる「深い学びの技法」(田中、2017)を活用しながら、以下の3点に留意し研究を進めた。

ア 20個ある「深い学びの技法」の中から3、4個を選び、組み合わせて、教科・領域の手立てを具体化する。

イ 各教科・領域で目指す「学びが深まった生徒の姿」を具体的に想定する。

ウ ねらいを達成するためのICT機器の活用を図る。

2 研究活動の概要

- | | | |
|-----------------|----------|------------------|
| (1) 第1回理事会・評議員会 | 4月11日(木) | 組織及び事業計画等の審議 |
| (2) 一斉部会 | 4月24日(水) | 各部会のテーマ及び事業計画の決定 |
| (3) 秋の教科部会・領域部会 | 各部の計画による | 下表参照 |

部会名	研究副題・指導者	会 場	研究授業日・研修日
国 語	「深い学びの技法」を活用した手立てや単元構成の工夫	黒川中	11月6日(水)
社 会	主体的に課題に取り組み、よりよく問題を解決できる生徒の育成 指導者 新潟大学附属新潟中学校 校長 山本 達也 様	聖籠中	11月6日(水)
数 学	主体的・対話的で深い学びにいたるための授業の工夫	京ヶ瀬中	11月6日(水)
理 科	日常的な知識と教科書で学習する知識を結びつける授業	安田中	11月6日(水)
音 楽	学びを深めるための授業の工夫～ICT 機器を活用した創作活動～ 指導者 新潟市小中学校 PTA 連合会 太田 三平 様	水原中	11月6日(水)
美 術	鑑賞を通して、見方・考え方を深める学び合いの工夫	露谷虹児 記念館	11月6日(水)
保 健 体 育	深い学びの技法を用いて生徒の良さを引き出す授業実践 ～生徒が主体的に学び合う授業を通して～ 指導者 村上市立岩船中学校 校長 只木 雅実 様	黒川中	11月6日(水)

技 術 家 庭	伝え合う力を身に付け、共に学びを深める生徒の育成	水原中	11月6日(水)
英 語	「学びを自分事にする」手立ての充実	築地中	11月6日(水)
道 徳	道徳的価値の理解を深める授業の工夫を通して	中条中	11月18日(月)
特 別 活 動	他者を認め、望ましい人間関係を築いていく活動の工夫 ～自ら課題を見つけ、共有して課題解決を目指す生徒の育成～ 指導者 村上市立村上南小学校 校長 磯部 睦 様	水原中	10月30日(水)
生 徒 指 導	生徒指導において、警察との連携を推進するとともに、対応力の向上につなげる 講師 新潟県警察本部 生活安全部 少年課 野呂 一博 様 成田 美和 様	水原中	8月21日(水)
進 路 指 導	望ましい進路選択のあり方について	乙中	10月22日(火)
総 合 学 習	地域との連携のあり方について	笹神中	11月26日(火)
学 校 保 健	現代的健康課題を抱える生徒への支援と擁護教諭の役割 ～健康相談における資質能力の向上を目指すために～ 講師 スクールカウンセラー 坂井 淳子 様	京ヶ瀬中	11月6日(水)
特 別 支 援	よりよく関わりあえる生徒の育成 講師 県立五泉特別支援学校 教諭 本間 里美 様	笹神中	11月21日(木)

(4) 第2回理事会・評議員会 2月20日(木) 今年度の反省と次年度の取組審議

3 成果と課題・次年度の取組(方向性)

<成果>

- (1)「深い学び」を実現するための具体的な手立てとして、「深い学びの技法」を基に構想することで、各部会とも目指す生徒の姿に迫ることができた。課題解決の場面で、学びの技法9「学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする」10「仲間と練り合いや練り上げをする」を活用することで、生徒の主体的な学びを実現することができた。(社会、数学、理科、音楽、技術・家庭科部会)
- (2)表現活動において、学びの技法13「理由や根拠を示して論理的に説明する」15「自分の言葉で学んだことを整理しまとめる」をICTの効果的な活用とからめ、学習の質を高めることができた。(音楽、保健体育部会)

<課題>

- ・「深い学び」を実現するためには、生徒が主体的に課題解決に取り組むことが不可欠である。生徒が自ら課題を設定し追究できるような単元デザインや授業づくりに取り組んでいかねばならない。
- ・「個別最適な学び」には、生徒の自己調整が欠かせない。どのように振り返りを設定していくかが重要である。

<次年度の取組>

- ・「深い学び」を実現するために、生徒が主体的に課題解決に取り組むことができる単元デザインについて焦点化して研究を進めていく。

佐渡市中学校教育研究会 研究活動の概要

「深い学び」にいたる授業～生徒のよさや可能性を引き出す「深い学び」の技法を用いて～

〈佐渡の特性を生かし「志高い生徒」をはぐくむ教育の推進〉

佐渡市中学校教育研究会 会 長 本間 学
同 副会長 梅田 茂明
同 副会長 安藤 博通

1 今年度の課題と取組

＜今年度の課題＞

- (1) 「深い学び」の技法を用いた「深い学び」にいたる授業改善
- (2) 「佐渡市の地域性を生かした教育実践の質的充実」

＜取 組＞

- (1)-① 「ア. 目指す「深い学び」にいたる生徒の姿」、「イ. アに迫るための深い学びの技法」が指導案に反映されるよう、授業を構想する。
 - ② 授業構想や検討会等では、①の「ア」と「イ」を中心に協議する。
 - ③ 「個別最適な学びと協働的な学び」と深い学びの技法との関連に留意しながら、「深い学びにいたる」授業を積極的に研究・実践する。
 - ④ 教師同士の「学び合い」を促進し協議会の質を上げるために、協議題を吟味するとともに、その協議題とリンクした授業参観の視点を明確にしておく。
 - ⑤ 外部講師の招聘や、県中教研指定研究会等へ積極的に参加し、その成果の共有を図る。
- (2)-① 学校や地域の特性を生かし、さまざまな人々とのかかわり・協働を通して豊かな心を育む。
 - ② キャリア教育の視点に立って、自立に向けた意欲ある生徒を育成する。
 - ③ 道徳における「考え議論する授業」の一層の充実・深化を目指して研修を重ねる。

2 研究活動の概要

- (1) 総集会、教科・領域部会（組織編成と事業計画：5月1日（水）佐渡市立新穂中学校）
- (2) 夏季一斉研修（午前：領域部会、午後：教科部会 8月20日（火））
- (3) 各部会の活動（全会員参加の研修）

研究部	研究主題	期日	主な研修内容
国 語	「深い学び」にいたる国語科の授業～生徒のよさや可能性を引き出す「深い学び」の技法を用いて～	11/26	○公開授業研修 「少年の日の思い出」 ○授業者：相川中 山内 康平教諭
社 会	社会科における「深い学び」にいたる授業づくり～生徒のよさや可能性を引き出す「深い学び」の技法を用いて～	10/15	○公開授業研修 「私たちと平和主義」 ○授業者：佐和田中 佐々木 傑教諭
数 学	学ぶ意欲を高め、わかる喜びを実感できる指導の工夫～学び合い、深い学びにいたる授業改善～	7/ 9	○公開授業研修 「1次関数」 ○授業者：新穂中 山本 宏之教諭
理 科	「深い学び」の技法を用いた「深い学び」にいたる授業改善	10/24	○公開授業研修 「電流と磁界」 ○授業者：前浜中 佐藤菜南子教諭
音 楽	自らの知識・技能を深め、音楽のよさや美しさを味わう生徒の育成	11/20	○公開授業研修 「日本の伝統音楽」 ○授業者：新穂中 塩谷 翔教諭
美 術	生徒が感性や想像力を働かせて、表現する授業の工夫～「深い学び」に至る授業	10/ 1	○公開授業研修 「視覚伝達デザイン・平面絵画表現」 ○授業者：高千中 杉澤 亮教諭
保健体育	できる喜びを感じさせる授業～保健体育的な深い学びにいたる授業の工夫	11/28	○公開授業研修 「器械運動」 ○授業者：新穂中 大間拳人教諭
技術家庭	実践的・体験的な活動を通して、学び合う生徒の育成～伝統文化と地域人材の活用	10/25	○県中教研公開授業 「伝統文化と地域人材の活用」 ○授業者：新穂中 川原幾代子教諭

英 語	「深い学び」にいたる授業～生徒のよさや可能性を引き出す「深い学び」の技法を用いて～	11/ 1	○県中教研プレ研究授業 「関係代名詞」 ○授業者：相川中 安田 夏怜教諭
道 徳	「深い学び」にいたる授業～生徒のよさや可能性を引き出す「深い学び」の技法を用いて「個別最適な学び」に留意しながら	11/19	○公開授業研修 「門掃き」(社会参画、公共の精神) ○授業者：佐和田中 三浦 雄弘教諭
特別活動	より良き人間関係を築き、自治的能力を高める特別活動の推進	11/21	○公開授業研修 ○授業者：南佐渡中 水野 雄基教諭
生徒指導	特別な支援を要する生徒への対応について	8/20	○講話 「特別な支援を要する生徒への対応について」 ○情報交換
進路指導	地域の特性をふまえ、志をもち、自分の進路選択に向かって努力し続ける生徒の育成	11/18	○高校入試に関する情報交換
総 合	探究的な地域学習を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む指導の工夫	9/25	○公開授業研修 「前浜ばやしパフォーマンス練習」 ○授業者：前浜中 石川 歩教諭
学校保健	保健室訪問や研修を通じて、自校の保健室経営について考え、学びを生かす	8/20 11/20	○保健室訪問等 相川中 ○保健室訪問等 真野中
事 務	会員の資質・能力・意欲の向上を図り、学校経営の中核的役割を担う学校事務の研究を深め、学校教育の充実発展に寄与する	9/ 6	○情報機器活用研修

(4) 研究成果の刊行

- ・ 編集委員を委嘱し、研修集録「佐渡の中学校」を発刊する。今年度より研究集録はデジタル版のみとし、紙媒体による配付は行わない。(市教委等、一部には紙媒体で送付する。)

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- (1) 各教科部会では、適切な指導者を招いて積極的な授業公開を行い、「深い学びの技法」を用いた「深い学びにいたる授業」を追究することができた。また、部員相互の「授業力」の向上を図るよい機会となった。
- (2) 公開授業研修会の他にも、各校の実態に関する情報交換をとおして、佐渡市の地域性を生かす教育実践を推進していくための課題を共有し、その解決に迫ることができた。また、市内各中学校は教科教員の単独配置が多く、初任者や初任校の若手教員も増える中、中教研の機能を生かし、部員同士が協働的に学び合う、貴重な情報交換の場となった。
- (3) 佐渡開催の県中教研指定研究発表会に向けて、県内の多くの中教研会員が気軽にそして持続可能に参加できることを目指し、ハイブリット方式での開催を市教委、サドテレビと連携し、実証実験を行った。当日のオンライン参加者は2名ではあったが、当日までの準備や使用した機器、それらに伴う経費も1万円弱となり、実証実験は、今後も県中教研指定研究会のハイブリット方式は継続可能との結論を得た。

<課題>

- (1) 「深い学びの技法」を単元や授業のどの場面でどのように用いるかを具体的に提示し、研究授業の提案がより焦点化されるようにする。
- (2) ICT機器の活用の工夫等、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにより学習活動における生徒の可能性を引き出すようにする。

<次年度の取組（方向性）>

- (1) 引き続き「深い学びにいたる授業」を研究テーマとして、「深い学びにいたる技法」を用いた授業改善に取り組む。
- (2) 県中教研指定の発表会（英語：令和7年度 道徳：令和8年度）に向け、市中教研全体を挙げた運営・支援体制を築くことによって、その研究成果を各教科や各学校へ還元していく。また、発表会は、今年度同様にハイブリット方式で行うこととする。